

ライフプランニング・リタイアメントプランニング
CFP問題集

Financial Planner



目 次

はじめに	1
第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識	3
Theme 1 キャッシュフロー表に関する総合問題	4
Theme 2 関連業法等の順守	36
Theme 3 係数を使う問題	40
第2章 教育資金設計	55
第3章 住宅取得資金設計	61
第4章 老後生活のための資金計画	77
第5章 ライフプラン等に関する税務	81
第6章 成年後見制度	87
第7章 働き方とその関連法令等	91
第8章 社会保険	97
第9章 公的年金	123
第10章 企業年金等	155
第11章 その他の問題	169
Theme 1 資金計画	170
Theme 2 資料読み取り問題	176
Theme 3 その他の分野の問題	187
解答・解説編	191

《過去問の表示について》

(例) (2022② 問題11)

出典：2022年度第2回CFP®資格審査試験 ライフプランニング 問題11

はじめに

CFP試験「ライフ・リタイアメントプランニング」合格のための重要点です。

第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識

4～6問程度の出題。キャッシュフロー表中の空欄の金額を求める問題(2問)、係数表を使用して金額を計算する問題(2～3問程度)は頻出である。その他キャッシュフロー表の内容に関する問題が出題される。

第2章 教育資金設計

1～2問程度の出題。特に教育一般貸付、奨学金が重要である。

第3章 住宅取得資金設計

3～4問程度の出題。特に購入可能な物件価格の上限額を求めさせる問題は頻出である。その他、ローンに関する計算問題や、住宅ローンに関する基本的知識は是非おさえてほしい。

第4章 老後生活のための資金計画

1～2問程度の出題。広範囲の内容から出題される。特に日常生活自立支援事業サービス付き高齢者向け住宅の問題を中心におさえてほしい。

第5章 ライフプラン等に関する税務

1～2問程度の出題。退職所得の計算問題は頻出であるため、確実に得点できるようにしてほしい。

第6章 成年後見制度

0～1問程度の出題。成年後見制度および後見制度支援信託に関する問題は頻出であるため確実にしておきたい。

第7章 働き方とその関連法令等

1～3問程度の出題。労働基準法に関する問題や最低賃金法に関する問題は、確実に得点できるようにしてほしい。

第8章 社会保険

9～13問程度の出題。特に傷病手当金・高額療養費・国民健康保険料関係の出題が多く、計算問題は確実に得点できるようにしたい。その他任意継続被保険者、介護保険、雇用保険等が出題の中心となる。

第9章 公的年金

9～12問程度の出題。老齢基礎年金、在職老齢年金、(特別支給の)老齢厚生年金などの老齢年金他、遺族年金、障害年金の計算問題(4～5問)は確実に得点できるようにしたい。

第10章 企業年金等

2～4問程度の出題。特に小規模企業共済、国民年金基金に関する問題が重要である。

第11章 その他の問題

<統計資料>から内容を読み取る問題(0～1問)が出題される。その他の分野では、中小法人の資金計画に関する問題が2問程度。その他公正証書遺言の作成手数料の問題など様々な分野から出題される。

Theme 1 キャッシュフロー表に関する総合問題

問1 キャッシュフロー表の計算 <第1章 Theme 2>

社員のパーソナルファイナンスに関する以下の設問A、Bについて、それぞれの答えを1～4の中から1つ選んでください。なお、設問A、Bについては以下の<資料>に基づいて解答してください。

<資料>

【収入に関する事項】

○給与収入（年間・手取り）

池谷 正一さん（本人・会社員）：現在550万円。2034年末に退職するが、2035年から2038年まで継続雇用で勤務する。なお、2035年以降の収入は350万円となる。

池谷 直子さん（妻・パート）：現在120万円。2036年末に退職し、2037年以降の収入はない。

○一時的収入

正一さんは、2034年に退職一時金2,000万円（手取り）を受け取る。

【支出に関する事項】

○基本生活費：年間360万円。2031年以降、年間300万円となる。

○住宅関連費：持ち家（マンション）

住宅ローン：金利年3.50%（全期間固定）

元利均等返済（ボーナス返済なし）

債務者は正一さんで70歳時に完済予定

年間返済額は124万円

固定資産税等：年間12万円

管理費および修繕積立金：年間30万円

○教育費

・長男は、私立の高校に通学しており、大学は私立理系（四年制）への進学を予定している。

・長女は、私立の高校に通学しており、大学は私立文系（四年制）への進学を予定している。

[教育費]

	高校		大学	
	公立	私立	私立文系	私立理系
年間教育費	40万円	90万円	85万円	120万円
入学一時金	15万円	35万円	30万円	30万円

- 生命保険料：年間24万円
- 自動車関連費
維持費：年間20万円
買替え：2030年に250万円
車検費用：2024年、2026年、2028年、2033年、2035年、2037年に行う。費用は1回当たり10万円
- その他支出 年間10万円
- 一時的支出
旅行費用：2027年、2031年に家族旅行30万円、2034年に夫婦旅行60万円

【留意事項】

- ・キャッシュフロー表の同一の欄に計上する項目が複数ある場合、それらの合計額に変動率を適用し算出した金額によること。
- ・＜資料＞の金額はすべて2023年（基準年）時点の現在価値である。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

＜現状のキャッシュフロー表＞

(単位：万円)

経過年数			基準年	1	2	3	4	5	6	7
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
家族・年齢	池谷 正一	本人	49	50	51	52	53	54	55	56
	直子	妻	47	48	49	50	51	52	53	54
	隆之	長男	18	19	20	21	22	23	24	25
	未来	長女	16	17	18	19	20	21	22	23
ライフイベント		変動率	長女 高校入学	長男 大学入学		長女 大学入学	家族旅行	長男就職		長女就職 自動車 買替え
収入	給与収入(本人)	1.0%	550	556	561	567	572	578	584	590
	給与収入(妻)	1.0%	120							
	一時的収入	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	収入合計	—	670							
支出	基本生活費	1.0%	360	364	367	371	375	378		
	住宅関連費	0.0%	166	166	166	166	166	166	166	166
	教育費(長男)	1.0%	90	152	122	124	125	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	125							0
	生命保険料	0.0%	24	24	24	24	24	24	24	24
	自動車関連費	1.0%	20							289
	その他支出	1.0%	10	10	10	10	10	11	11	11
	一時的支出	1.0%	0	0	0				0	0
支出合計	—	795			(ア)					
年間収支	—	▲125								
預貯金等残高	1.0%	1,500								

経過年数			8	9	10	11	12	13	14	15
西暦(年)			2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
家族・年齢	池谷 正一	本人	57	58	59	60	61	62	63	64
	直子	妻	55	56	57	58	59	60	61	62
	隆之	長男	26	27	28	29	30	31	32	33
	未来	長女	24	25	26	27	28	29	30	31
ライフイベント		変動率	家族旅行			夫退職 夫婦旅行	夫 継続雇用	妻 退職		
収入	給与収入(本人)	1.0%	596	602	608					
	給与収入(妻)	1.0%							0	0
	一時的収入	0.0%	0	0	0	2,000	0	0	0	0
	収入合計	—								
支出	基本生活費	1.0%								
	住宅関連費	0.0%	166	166	166	166	166	166	166	166
	教育費(長男)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	生命保険料	0.0%	24	24	24	24	24	24	24	24
	自動車関連費	1.0%						23	34	23
	その他支出	1.0%	11	11	11	11	11	11	11	12
	一時的支出	1.0%					0	0	0	0
支出合計	—									
年間収支	—	(イ)								
預貯金等残高	1.0%				3,545					3,265

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。

※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。

※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

(設問A)

池谷さん夫婦は、将来の資金設計についてCFP®認定者に相談し、キャッシュフロー表を作成してもらったことにした。現状のキャッシュフロー表中の空欄(ア)、(イ)にあてはまる金額の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2021② 問題6改題)

1. (ア) 814 (イ) 81
2. (ア) 814 (イ) 146
3. (ア) 844 (イ) 81
4. (ア) 844 (イ) 146

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

(設問B)

池谷さん夫婦は、退職後の収支を改善するため、直子さんの就業および住宅ローンの見直しを考えている。そこで、CFP®認定者は、以下の〈見直し内容〉を提案し、それに伴うキャッシュフロー表を作成した。見直し後のキャッシュフロー表中の空欄(ウ)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2021② 問題7改題)

〈見直し内容〉

【収入に関する事項】

○給与収入(年間・手取り)

- ・直子さんの就業時間を増やし、2024年から160万円(現在価値)とする。

【支出に関する事項】

○住宅関連費持ち家(マンション)

- ・2024年に住宅ローンを以下のとおり借り換える。

金利年1.24%(全期間固定)

元利均等返済(ボーナス返済なし)

債務者は正一さんで70歳時に完済予定

年間返済額は102万円(2024年以降)

借換え手数料等は59万円

- ・2031年に500万円の繰上げ返済(期間短縮型)を行う。

1. 3,726
2. 3,734
3. 3,771
4. 3,997

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			基準年	1	2	3	4	5	6	7
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
家族・年齢	池谷 正一	本人	49	50	51	52	53	54	55	56
	直子	妻	47	48	49	50	51	52	53	54
	隆之	長男	18	19	20	21	22	23	24	25
	未来	長女	16	17	18	19	20	21	22	23
ライフイベント			長女 高校入学	長男 大学入学 ローン 借換え		長女 大学入学	家族旅行	長男就職		長女就職 自動車 買替え
		変動率								
収入	給与収入(本人)	1.0%	550	556	561	567	572	578	584	590
	給与収入(妻)	1.0%	120							
	一時的収入	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	収入合計	—	670							
支出	基本生活費	1.0%	360	364	367	371	375	378		
	住宅関連費	0.0%	166	203	144	144	144	144	144	144
	教育費(長男)	1.0%	90	152	122	124	125	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	125							0
	生命保険料	0.0%	24	24	24	24	24	24	24	24
	自動車関連費	1.0%	20							289
	その他支出	1.0%	10	10	10	10	10	11	11	11
	一時的支出	1.0%	0	0	0				0	0
支出合計	—	795								
年間収支	—	▲125								
預貯金等残高	1.0%	1,500								

経過年数			8	9	10	11	12	13	14	15
西暦(年)			2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
家族・年齢	池谷 正一	本人	57	58	59	60	61	62	63	64
	直子	妻	55	56	57	58	59	60	61	62
	隆之	長男	26	27	28	29	30	31	32	33
	未来	長女	24	25	26	27	28	29	30	31
ライフイベント			家族旅行 ローン 繰上げ 返済			夫退職 夫婦旅行	夫 継続雇用	妻 退職		
		変動率								
収入	給与収入(本人)	1.0%	596	602	608					
	給与収入(妻)	1.0%							0	0
	一時的収入	0.0%	0	0	0	2,000	0	0	0	0
	収入合計	—								
支出	基本生活費	1.0%								
	住宅関連費	0.0%	644	144	144	144	144	144	144	144
	教育費(長男)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	生命保険料	0.0%	24	24	24	24	24	24	24	24
	自動車関連費	1.0%						23	34	23
	その他支出	1.0%	11	11	11	11	11	11	11	12
	一時的支出	1.0%					0	0	0	0
支出合計	—									
年間収支	—									
預貯金等残高	1.0%				3,711	(ウ)				3,620

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。

※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。

※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

問2 キャッシュフロー表の計算 <第1章 Theme 2>

会社員の宮本小五郎さん（34歳）は、2023年に双子が誕生したので、子どもたちの教育資金を確保しながら住宅を購入し、さらに将来の老後資金を準備できるのか心配しています。そこで、CFP®認定者に家計診断を依頼して、キャッシュフロー表を作成してもらうことにしました。以下の設問A～Cについて、それぞれの答えを1～4の中から1つ選んでください。

<資料>

【収入に関する事項】

○給与収入（年間）

- ・小五郎さん（本人・会社員）：現在315万円
- ・静香さん（妻・会社員）：現在、育児休業中で、会社からの報酬は受け取っていない。
2024年に短時間勤務で会社に復職し（180万円・現在価値）、2023年から通常勤務となる（260万円・現在価値）。

○その他収入（年間）

- ・静香さんは、2023年中に育児休業給付金（154万円）を受け取った。

【支出に関する事項】

○基本生活費 年間264万円（現在価値）

○住宅関連費（賃貸マンション）

- ・家賃（管理費込み）：年間120万円

○教育費

- ・「教育費（長女）」および「教育費（二女）」について、小学校に入学する年の前年までに記載されている金額は保育園に係る費用であり、二女については負担が軽減されている。
- ・子どもは2人とも高校までは公立、大学（四年制）は私立理系への進学を予定している。

[教育費の現在価値]

	小学校		中学校		高校		大学	
	公立	私立	公立	私立	公立	私立	私立文系	私立理系
年間教育費	30万円	40万円	115万円	35万円	90万円	90万円	115万円	
入学一時金	—	10万円	40万円	10万円	25万円	30万円	30万円	

○保険料 年間6万円

○その他支出

- ・レジャー、帰省等：毎年20万円（現在価値）

○一時的支出

- ・家族旅行：10年後（2033年）に40万円（現在価値）
19年後（2042年）に60万円（現在価値）

【留意事項】

- ・キャッシュフロー表の同一の欄に計上する項目が複数ある場合、それらの合計額に変動率を適用して算出した金額によること。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

<現状のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
家族・年齢	宮本 小五郎	本人	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	
		静香	妻	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
		さくら	長女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		もも	二女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ライフイベント										長女二女 小学校入学			家族旅行	
変動率														
収入	給与収入(本人)	1.0%	315	318	321	325	328	331	334	338	341	345	348	
	給与収入(妻)	1.0%		182	184	185	187	189	191	193	195	197	287	
	一時的収入	0.0%												
	その他収入	0.0%	154											
	収入合計	—	469	500	505	510	515	520	525	531	536	542	635	
支出	基本生活費	1.0%	264										292	
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	
	教育費(長女)	1.0%	0	48	49	31	31	32	32				33	
	教育費(二女)	1.0%	0	24	24	15	16	16	16				33	
	保険料	0.0%	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	その他支出	1.0%	20	20										
	一時的支出	1.0%												
	支出合計	—	410	485	488	465	469	472	475		498	503		
年間収支	—	59	15	17	45	46	48	50		38	39	(イ)		
預貯金等残高	1.0%	400	419	440	489	540	593	649	(ア)					

経過年数			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
西暦(年)			2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	
家族・年齢	宮本 小五郎	本人	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	
		静香	妻	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
		さくら	長女	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		もも	二女	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ライフイベント					長女二女 中学入学			長女二女 高校入学			長女二女 大学入学	家族旅行	
変動率													
収入	給与収入(本人)	1.0%	351	355	358	362	366	369	373	377	381	384	
	給与収入(妻)	1.0%	290	293	296	299	302	305	308	311	314	317	
	一時的収入	0.0%											
	その他収入	0.0%											
	収入合計	—	641	648	654	661	668	674					
支出	基本生活費	1.0%											
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	
	教育費(長女)	1.0%											
	教育費(二女)	1.0%											
	保険料	0.0%	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	その他支出	1.0%											
	一時的支出	1.0%											
	支出合計	—	509	514	563	544	547	565				752	
年間収支	—	132	134	91	117	121	109				▲51		
預貯金等残高	1.0%												

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。

※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。

ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。

※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

(設問A)

現状のキャッシュフロー表中の空欄(ア)、(イ)にあてはまる金額の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2016① 問題6改題)

1. (ア) 686 (イ) 85
2. (ア) 686 (イ) 129
3. (ア) 692 (イ) 129
4. (ア) 692 (イ) 85

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

(設問B)

宮本さん夫婦は2028年にマンションを購入したいと考えている。CFP®認定者は、以下の<資料>に基づき、宮本さんの希望する住宅購入と家計の見直しを行った場合の見直し後のキャッシュフロー表を作成した。見直し後のキャッシュフロー表中の空欄(ウ)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2016① 問題7改題)

<資料>

【住宅購入に関する事項】

住宅購入額2,600万円(購入年末の時価は2,400万円とする)

○住宅関連費

・住宅ローン：借入額2,500万円(キャッシュフロー表の「一時的収入」に計上している)

借入期間25年(元利均等返済・ボーナス併用なし)

年間返済額132万円(2028年における元本返済額は76万円、利息支払額は56万円である)

・固定資産税等：年間22万円

○一時的支出

・住宅の購入費および購入に係る諸経費の合計2,815万円を2028年に支払う。

【家計の見直しの内容】

○基本生活費

生活費の見直しにより、2024年以降、月22万円から20万円(現在価値)に減らす。

○保険料

学資保険に加入するなどの生命保険の保障の見直しにより、2024年から2041年まで、毎年の保険料が48万円に増える。

1. 3,316
2. 3,323
3. 3,338
4. 3,363

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
家族・年齢	宮本 小五郎	本人	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	
		静香	妻	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
		さくら	長女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		もも	二女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ライフイベント								住宅購入		長女二女 小学校入学			家族旅行	
変動率														
収入	給与収入(本人)	1.0%	315	318	321	325	328	331	334	338	341	345	348	
	給与収入(妻)	1.0%		182	184	185	187	189	191	193	195	197	287	
	一時的収入	0.0%						2,500						
	その他収入	0.0%	154											
	収入合計	—	469	500	505	510	515	3,020	525	531	536	542	635	
支出	基本生活費	1.0%	264											
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120							
	教育費(長女)	1.0%	0	48	49	31	31	32	32					
	教育費(二女)	1.0%	0	24	24	15	16	16	16					
	保険料	0.0%	6											
	その他支出	1.0%	20	20										
	一時的支出	1.0%						2,815						
	支出合計	—	410	502	506	482	486	(ウ)	526	544	548		599	
年間収支	—	59	▲2	▲1	28	29		▲1	▲13	▲12	▲10	36		
預貯金等残高	1.0%	400	402	405	437			157	158	147	136	127	164	

経過年数			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
西暦(年)			2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	
家族・年齢	宮本 小五郎	本人	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	
		静香	妻	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
		さくら	長女	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		もも	二女	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ライフイベント					長女二女 中学入学			長女二女 高校入学			長女二女 大学入学	家族旅行	
変動率													
収入	給与収入(本人)	1.0%	351	355	358	362	366	369	373	377	381	384	
	給与収入(妻)	1.0%	290	293	296	299	302	305	308	311	314	317	
	一時的収入	0.0%									580		
	その他収入	0.0%											
	収入合計	—	641	648	654	661	668	674	681	688	1,275	701	
支出	基本生活費	1.0%											
	住宅関連費	0.0%											
	教育費(長女)	1.0%											
	教育費(二女)	1.0%											
	保険料	0.0%										17	
	その他支出	1.0%											
	一時的支出	1.0%											
	支出合計	—	558	563	612	593	596	612	592	597	938	768	
年間収支	—	83	85	42	68	72	62	89	91	337	▲67		
預貯金等残高	1.0%	249	336	381	453	530	597	692	790	1,135	1,079		

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。
 ※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。
 ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。
 ※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

(設問C)

CFP®認定者は、宮本さん夫婦が住宅を購入した年(2028年)の年末の宮本家のバランスシートを作成した。以下の<宮本家のバランスシート>の空欄(エ)、(オ)にあてはまる数値の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、バランスシートの項目に入る数値は、(設問B)の<資料>および<見直し後のキャッシュフロー表>による2028年末の数値によるものとする。また、自宅マンションについては年末の時価によるものとし、保険契約については考慮しないものとする。(2016① 問題8改題)

<宮本家のバランスシート>

資産		負債および純資産	
預貯金等	157万円	負債	
自宅	***万円	住宅ローン	(オ)万円
		負債合計	***万円
		純資産	***万円
資産合計	(エ)万円	負債・純資産合計	***万円

※問題作成の都合上、バランスシートの一部を「***」にしてある。

1. (エ) 2,557 (オ) 2,368
2. (エ) 2,557 (オ) 2,424
3. (エ) 2,757 (オ) 2,368
4. (エ) 2,757 (オ) 2,424

問3 キャッシュフロー表の計算 <第1章 Theme 2>

会社員のパーソナルファイナンスに関する以下の設問A、Bについて、それぞれの答えを1～4の中から1つ選んでください。なお、設問A、Bについては以下の<資料>に基づいて解答してください。

<資料>

【収入に関する事項】

○給与収入（年間・手取り）

牧村 賢治さん（本人・会社員）：540万円

牧村 理恵さん（妻・パート）：100万円

【支出に関する事項】

○基本生活費 年間280万円

○住宅関連費 持ち家（マンション）

住宅ローン：金利年2.0%（全期間固定）

元利均等返済（ボーナス返済なし）

債務者は賢治さんで70歳時完済予定

年間返済額は119万円

固定資産税等：年間14万円

管理費および修繕積立金：年間28万円

○教育費

・長男は公立高校に在学中で、大学は私立文系（四年制）への進学を予定している。

・長女は公立中学校に在学中で、高校は私立、大学は私立文系（四年制）への進学を予定している。

	中学校		高校		大学	
	公立	私立	公立	私立	私立文系	私立理系
年間教育費	40万円	120万円	40万円	90万円	160万円	190万円
入学一時金	15万円	40万円	15万円	30万円	30万円	35万円

○生命保険料 年間36万円

○その他支出 毎年24万円

○一時的支出 家族旅行：2025年に40万円、2029年と2032年にそれぞれ50万円

【留意事項】

・キャッシュフロー表の同一の欄に計上する項目が複数ある場合、それらの合計額に変動率を適用し算出した金額によること。

・<資料>の金額はすべて2023年（基準年）時点の現在価値である。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

<現状のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			基準年	1	2	3	4	5	6	7
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
家族・年齢	牧村 賢治	本人	43	44	45	46	47	48	49	50
		理恵	妻	45	46	47	48	49	50	51
		大介	長男	17	18	19	20	21	22	23
		結菜	長女	14	15	16	17	18	19	20
ライフイベント		変動率			長男 大学入学 長女 高校入学 家族旅行			長女 大学入学	長男就職 家族旅行	
収入	給与収入(本人)	1.0%	540						573	579
	給与収入(妻)	0.0%	100	100	100	100	100	100	100	100
	収入合計	—	640						673	679
支出	基本生活費	1.0%	280	283	286	288	291	294	297	300
	住宅関連費	0.0%	161	161	161	161	161	161	161	161
	教育費(長男)	1.0%	40	40					0	0
	教育費(長女)	1.0%	40	40						
	生命保険料	0.0%	36	36	36	36	36	36	36	36
	その他支出	1.0%	24	24	24	25	25	25	25	26
	一時的支出	1.0%	0	0		0	0	0	53	0
支出合計	—	581				773	884	742	695	
年間収支	—	59	61	(ア)		▲111	▲216	▲69	▲16	
預貯金等残高	1.0%	710				361	149	81	66	

経過年数			8	9	10	11	12	13	14	15
西暦(年)			2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
家族・年齢	牧村 賢治	本人	51	52	53	54	55	56	57	58
		理恵	妻	53	54	55	56	57	58	59
		大介	長男	25	26	27	28	29	30	31
		結菜	長女	22	23	24	25	26	27	28
ライフイベント		変動率		長女就職 家族旅行						
収入	給与収入(本人)	1.0%			596	602	608	615	621	627
	給与収入(妻)	0.0%	100	100	100	100	100	100	100	100
	収入合計	—			696	702	708	715	721	727
支出	基本生活費	1.0%	303	306	309	312	316	319	322	325
	住宅関連費	0.0%	161	161	161	161	161	161	161	161
	教育費(長男)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	173	0	0	0	0	0	0	0
	生命保険料	0.0%	36	36	36	36	36	36	36	36
	その他支出	1.0%	26	26	27	27	27	27	28	28
	一時的支出	1.0%	0		0	0	0	0	0	0
支出合計	—	699			536	540	543	547	550	
年間収支	—	▲14			166	168	172	174	177	
預貯金等残高	1.0%	53			495	668	847	1,029	1,216	

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。

※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記載されている数値は万円未満四捨五入したものを使用すること。ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。

※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

(設問A)

牧村さん夫婦は、今後の資金計画や住宅ローンの返済などについて、CFP®認定者に相談し、キャッシュフロー表を作成してもらうことにした。現状のキャッシュフロー表中の空欄(ア)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2020年② 問題7改題)

1. ▲166
2. ▲172
3. ▲207
4. ▲213

(設問B)

理恵さんは、今後、教育費の負担も重くなることから、収入を増やしたいと考え、CFP®認定者に相談し、以下の〈見直しの内容〉を反映させたキャッシュフロー表を作成してもらうことにした。見直し後のキャッシュフロー表中の空欄(イ)、(ウ)にあてはまる金額の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2020年② 問題8改題)

〈見直しの内容〉

- ・理恵さんの給与収入(年間・手取り): 2024年より、年間110万円(2024年時点の現在価値)となる。
- ・住宅関連費: 2024年に住宅ローンの借換えを行うことにより、年間返済額は2024年以降、年間9万円減少する。なお、借換えにかかる諸費用の支出は40万円(2024年時点の現在価値)である。
- ・生命保険料: 保険の見直しにより、2024年以降、毎年の保険料を5万円減らす。

1. (イ) 45 (ウ) 381
2. (イ) 45 (ウ) 392
3. (イ) 85 (ウ) 381
4. (イ) 85 (ウ) 392

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			基準年	1	2	3	4	5	6	7
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
家族・年齢	牧村 賢治	本人	43	44	45	46	47	48	49	50
		理恵	妻	45	46	47	48	49	50	51
		大介	長男	17	18	19	20	21	22	23
		結菜	長女	14	15	16	17	18	19	20
ライフイベント		変動率			長男 大学入学 長女 高校入学 家族旅行			長女 大学入学	長男就職 家族旅行	
収入	給与収入(本人)	1.0%	540							579
	給与収入(妻)	1.0%	100							117
	収入合計	—	640							696
支出	基本生活費	1.0%	280	283	286	288	291	294	297	300
	住宅関連費	0.0%	161							
	教育費(長男)	1.0%	40	40						0
	教育費(長女)	1.0%	40	40						0
	生命保険料	0.0%	36							
	その他支出	1.0%	24	24	24	25	25	25	25	26
	一時的支出	1.0%	0	0		0	0	0	53	0
支出合計	—	581				759	870	728	681	
年間収支	—	59	(イ)			▲84	▲188	▲39	15	
預貯金等残高	1.0%	710				423	239	202	219	

経過年数			8	9	10	11	12	13	14	15
西暦(年)			2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
家族・年齢	牧村 賢治	本人	51	52	53	54	55	56	57	58
		理恵	妻	53	54	55	56	57	58	59
		大介	長男	25	26	27	28	29	30	31
		結菜	長女	22	23	24	25	26	27	28
ライフイベント		変動率		長女就職 家族旅行						
収入	給与収入(本人)	1.0%				602	608	615	621	627
	給与収入(妻)	1.0%				122	123	124	125	126
	収入合計	—				724	731	739	746	753
支出	基本生活費	1.0%	303	306	309	312	316	319	322	325
	住宅関連費	0.0%								
	教育費(長男)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	173	0	0	0	0	0	0	0
	生命保険料	0.0%								
	その他支出	1.0%	26	26	27	27	27	27	28	28
	一時的支出	1.0%	0		0	0	0	0	0	0
支出合計	—	685			522	526	529	533	536	
年間収支	—	18				202	205	210	213	217
預貯金等残高	1.0%	239	(ウ)			790	1,003	1,223	1,448	1,679

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。
 ※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。
 ※ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。
 ※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

問4 キャッシュフロー表の計算 <第1章 Theme 2>

会社員のパーソナルファイナンスに関する以下の設問A、Bについて、それぞれの答えを1～4の中から1つ選んでください。なお、設問A、Bについては、以下の<資料>に基づいて解答してください。

<資料>

【収入に関する事項】

○給与収入（年間・手取り）

倉田信夫さん（本人・会社員）：現在350万円

倉田紀子さん（妻・パート）：現在120万円

就業時間を増やし、2029年から200万円（現在価値）

【支出に関する事項】

○基本生活費 年間300万円（現在価値）

○住宅関連費（賃貸マンション）

家賃（管理費等込み）：年間120万円

○教育費

長女および長男はともに、小学校および中学校は公立、高校は私立への進学を予定している。

[教育費の現在価値]

	小学校	中学校		高校	
	公立	公立	私立	公立	私立
年間教育費	30万円	50万円	110万円	40万円	90万円
入学一時金	—	10万円	40万円	15万円	35万円

※キャッシュフロー表の「教育費」について、小学校に入学する年の前年までに記載されている金額は、保育料である。

○生命保険料 年間34万円

○自動車関連費（すべて現在価値）

維持費：毎年20万円

買替え：2028年に200万円

車検費用：2024年、2026年、2031年、2033年、2035年、2037年に車検を行う。
費用は、1回当たり10万円

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

○その他支出 毎年10万円（現在価値）

○一時的支出

家族旅行：2030年と2034年にそれぞれ30万円（現在価値）

【留意事項】

- ・キャッシュフロー表の同一の欄に計上する項目が複数ある場合、それらの合計額に変動率を適用し算出した金額によること。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

<現状のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数		基準年	1	2	3	4	5	6	7	
西暦(年)		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
家族・年齢	倉田 信夫	本人	33	34	35	36	37	38	39	40
	紀子	妻	31	32	33	34	35	36	37	38
	京子	長女	3	4	5	6	7	8	9	10
	将司	長男	1	2	3	4	5	6	7	8
ライフイベント						長女 小学校 入学	自動車 買替え	長男 小学校 入学	家族旅行	
		変動率								
収入	給与収入(本人)	1.5%	350	355	361	366	371	377	383	388
	給与収入(妻)	1.0%	120	121	122					
	収入合計	—	470	476	483			(ア)		
支出	基本生活費	1.0%	300	303	306	309	312	315	318	322
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120
	教育費(長女)	1.0%	25	25	26	26	31	32	32	32
	教育費(長男)	1.0%	25	25	26	26	26	26	32	32
	生命保険料	0.0%	34	34	34	34	34	34	34	34
	自動車関連費	1.0%	20	30						
	その他支出	1.0%	10	10	10	10	10	11	11	11
	一時的支出	1.0%	0	0						
支出合計		—	534	547						
年間収支		—	▲64	▲71						
預貯金等残高		1.0%	600	535						

経過年数		8	9	10	11	12	13	14	15	
西暦(年)		2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	
家族・年齢	倉田 信夫	本人	41	42	43	44	45	46	47	48
	紀子	妻	39	40	41	42	43	44	45	46
	京子	長男	11	12	13	14	15	16	17	18
	将司	長女	9	10	11	12	13	14	15	16
ライフイベント				長女 中学入学	家族旅行	長男 中学入学	長女 高校入学		長男 高校入学	
		変動率								
収入	給与収入(本人)	1.5%	394	400	406	412	418	425	431	438
	給与収入(妻)	1.0%								
	収入合計	—								
支出	基本生活費	1.0%	325	328	331	335	338	341	345	348
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120
	教育費(長女)	1.0%	32							
	教育費(長男)	1.0%	32							
	生命保険料	0.0%	34	34	34	34	34	34	34	34
	自動車関連費	1.0%						23	34	23
	その他支出	1.0%	11	11	11	11	11	11	11	12
	一時的支出	1.0%								
支出合計		—			(イ)					
年間収支		—								
預貯金等残高		1.0%	157							

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。

※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。

※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

(設問A)

倉田さん夫婦は、将来の資金設計についてCFP®認定者に相談し、キャッシュフロー表を作成してもらうことにした。現状のキャッシュフロー表中の空欄(ア)、(イ)にあてはまる金額の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2021① 問題6改題)

1. (ア) 595 (イ) 611
2. (ア) 595 (イ) 644
3. (ア) 510 (イ) 611
4. (ア) 510 (イ) 644

(設問B)

紀子さんは、収入を増やすため働き方の見直しを考えており、CFP®認定者に以下の<見直しの内容>を反映させたキャッシュフロー表を作成してもらうことにした。見直し後のキャッシュフロー表中の空欄(ウ)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。

(2021① 問題7改題)

<見直しの内容>

紀子さんの給与収入(手取り): 2029年以降、年間280万円(現在価値)とする。
その他支出: 2026年以降、年間15万円(現在価値)とする。

1. 758
2. 768
3. 774
4. 808

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数		基準年	1	2	3	4	5	6	7		
西暦(年)		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
家族・年齢	倉田 信夫	本人	33	34	35	36	37	38	39	40	
		紀子	妻	31	32	33	34	35	36	37	38
		京子	長女	3	4	5	6	7	8	9	10
		将司	長男	1	2	3	4	5	6	7	8
ライフイベント						長女 小学校 入学	自動車 買替え	長男 小学校 入学	家族旅行		
	変動率										
収入	給与収入(本人)	1.5%	350	355	361	366	371	377	383	388	
	給与収入(妻)	1.0%	120	121	122						
	収入合計	—	470	476	483						
支出	基本生活費	1.0%	300	303	306	309	312	315	318	322	
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120	
	教育費(長女)	1.0%	25	25	26	26	31	32	32	32	
	教育費(長男)	1.0%	25	25	26	26	26	26	32	32	
	生命保険料	0.0%	34	34	34	34	34	34	34	34	
	自動車関連費	1.0%	20	30							
	その他支出	1.0%	10	10	10						
	一時的支出	1.0%	0	0							
	支出合計	—	534	547							
年間収支	—	▲64	▲71								
預貯金等残高	1.0%	600	535								

経過年数		8	9	10	11	12	13	14	15		
西暦(年)		2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038		
家族・年齢	倉田 信夫	本人	41	42	43	44	45	46	47	48	
		紀子	妻	39	40	41	42	43	44	45	46
		京子	長男	11	12	13	14	15	16	17	18
		将司	長女	9	10	11	12	13	14	15	16
ライフイベント				長女 中学入学	家族旅行	長男 中学入学	長女 高校入学		長男 高校入学		
	変動率										
収入	給与収入(本人)	1.5%	394	400	406	412	418	425	431	438	
	給与収入(妻)	1.0%									
	収入合計	—									
支出	基本生活費	1.0%	325	328	331	335	338	341	345	348	
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120	
	教育費(長女)	1.0%	32								
	教育費(長男)	1.0%	32								
	生命保険料	0.0%	34	34	34	34	34	34	34	34	
	自動車関連費	1.0%						23	34	23	
	その他支出	1.0%									
	一時的支出	1.0%									
	支出合計	—									
年間収支	—										
預貯金等残高	1.0%	386	510	596	676	750	(ウ)				

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。

※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。

※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

問5 キャッシュフロー表の計算 <第1章 Theme 2>

会社員の北村和幸さん（37歳）は、今後の資金計画や住宅ローンの返済などについて、CFP®認定者に相談し、キャッシュフロー表を作成してもらうことにしました。以下の設問A、Bについて、それぞれの答えを1～4の中から1つ選んでください。

<資料>

【収入に関する事項】

○給与収入（年間）

- ・和幸さん（本人・会社員）：現在460万円
- ・圭子さん（妻・パート）：現在60万円

【支出に関する事項】

○基本生活費 年間216万円（現在価値）

○住宅関連費 持ち家（マンション）

- ・住宅ローン：金利年2.3%（全期間固定）
元利均等返済（ボーナス返済なし）
債務者は和幸さんで69歳完済予定
年間返済額は104万円

- ・固定資産税等：年間10万円

- ・管理費および修繕積立金：年間16万円

○教育費

- ・長女は、小学校、中学校、高校は公立、大学（四年制）は私立理系への進学を予定している。
- ・二女は、小学校、中学校は公立、高校は私立、大学（四年制）は私立文系への進学を予定している。

[教育費の現在価値]

	小学校		中学校		高校		大学	
	公立	私立	公立	私立	公立	私立	私立文系	私立理系
年間教育費	30万円	50万円	120万円	40万円	90万円	90万円	120万円	
入学一時金	—	10万円	40万円	10万円	30万円	30万円	30万円	

※キャッシュフロー表の「教育費」について、小学校に入学する年の前年までに記載されている金額は、保育料である。

○生命保険料 年間22万円

○その他支出

- ・レジャー、帰省等：毎年30万円（現在価値）

○一時的支出

- ・旅行：2027年、2033年にそれぞれ20万円、2043年に50万円（すべて現在価値）

【留意事項】

- ・キャッシュフロー表の同一の欄に計上する項目が複数ある場合、それらの合計額に変動率を適用し算出した金額によること。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

＜現状のキャッシュフロー表＞

(単位：万円)

経過年数		現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
西暦(年)		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
家族・年齢	北村 和幸	本人	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
	圭子	妻	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	美咲	長女	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	成美	二女	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ライフイベント				長女 小学校 入学		二女 小学校 入学	旅行			長女 中学校 入学		二女 中学校 入学	長女 高校入学 旅行
		変動率											
収入	給与収入(本人)	1.0%	460	465	469	474	479	483	488	493	498	503	508
	給与収入(妻)	1.0%	60	61	61	62	62	63	64	64	65	66	66
	収入合計	—	520	526	530	536	541	546	552	557	563	569	574
支出	基本生活費	1.0%	216	218	220	223							239
	住宅関連費	0.0%	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130
	教育費(長女)	1.0%	20	30	31	31							55
	教育費(二女)	1.0%	10	20	20	31							55
	保険料	0.0%	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
	その他支出	1.0%	30	30	31	31	31	32	32	32			
	一時的支出	1.0%					21						
	支出合計	—	428	450	454	468	491	475	477		504	542	
年間収支	—	92	76	76	68	50	71	75	(ア)	59	27		
預貯金等残高	1.0%	500	581	663	738	795	874	958			1,120	(イ)	

経過年数			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
西暦(年)			2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043
家族・年齢	北村 和幸	本人	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57
	圭子	妻	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
	美咲	長女	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	成美	二女	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
ライフイベント				二女 高校入学	長女 大学入学		二女 大学入学		長女就職		二女就職	旅行
		変動率										
収入	給与収入(本人)	1.0%	513	518	524	529	534	539	545	550	556	561
	給与収入(妻)	1.0%	67	68	68	69	70	70	71	72	72	73
	収入合計	—	580	586	592	598	604	609	616	622	628	634
支出	基本生活費	1.0%	241	243	246	248	251	253	256	258	261	264
	住宅関連費	0.0%	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130
	教育費(長女)	1.0%	45	45	171	138	139	141				
	教育費(二女)	1.0%	56	135	102	103	139	106	107	108		
	保険料	0.0%	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
	その他支出	1.0%	33	34	34	34	35	35	36	36	36	37
	一時的支出	1.0%										61
	支出合計	—	527	609	705	675	716	687	551	554	449	514
年間収支	—	53	▲23	▲113	▲77	▲112	▲78	65	68	179	120	
預貯金等残高	1.0%	1,213	1,202	1,101	1,035	933	864	938	1,015	1,204	1,336	

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。
 ※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記載の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。
 ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。
 ※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

(設問A)

現状のキャッシュフロー表中の空欄（ア）、（イ）にあてはまる金額の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2017① 問題7改題)

1. (ア) 77 (イ) 1,149
2. (ア) 45 (イ) 1,171
3. (ア) 77 (イ) 1,171
4. (ア) 45 (イ) 1,149

(設問B)

圭子さんは、勤務先からの要望もあり勤務時間を増やそうと考えている。CFP®認定者は、以下の〈見直しの内容〉を提案し、それに基づくキャッシュフロー表を作成した。見直し後のキャッシュフロー表中の空欄（ウ）、（エ）にあてはまる金額の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2017① 問題8改題)

〈見直しの内容〉

【収入に関する事項】

○給与収入（年間）

- ・圭子さん：勤務時間を増やし、2024年から100万円（現在価値）になる。

【支出に関する事項】

○住宅関連費

- ・住宅ローンの借換えにより、2024年以降、毎年の住宅ローン返済額は86万円に減る。

なお、2024年は住宅ローン返済額86万円のほか、借換えの諸費用として65万円を支出している。

- ・2028年末に300万円の繰上げ返済（期間短縮型）を行う。

- 保険料：生命保険の保障の見直しにより、2024年以降、毎年の保険料を7万円減らす。

1. (ウ) 112 (エ) 15
2. (ウ) 112 (エ) 22
3. (ウ) 86 (エ) 22
4. (ウ) 86 (エ) 15

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数		現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
西暦(年)		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
家族・年齢	北村 和幸 本人	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	
	圭子 妻	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	
	美咲 長女	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
	成美 二女	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
ライフイベント			長女 小学校 入学		二女 小学校 入学	旅行	繰上げ 返済		長女 中学校 入学		二女 中学校 入学	長女 高校入学 旅行	
変動率													
収入	給与収入(本人)	1.0%	460	465	469	474	479	483	488	493	498	503	508
	給与収入(妻)	1.0%	60	101	102	103							
	収入合計	—	520	566	571	577	583	588	594	600	606	612	618
支出	基本生活費	1.0%	216	218	220	223							
	住宅関連費	0.0%	130	177	112	112	112	412			(ウ)		
	教育費(長女)	1.0%	20	30	31	31							
	教育費(二女)	1.0%	10	20	20	31							
	保険料	0.0%	22								(エ)		
	その他支出	1.0%	30	30	31	31	31	32	32	32			
	一時的支出	1.0%					21						
	支出合計	—	428	490	429	443	466	750	452				
年間収支	—	92	76	142	134	117	▲162	142	113	127	95	87	
預貯金等残高	1.0%	500	581	729	870	996	844	994					

経過年数		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
西暦(年)		2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	
家族・年齢	北村 和幸 本人	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	
	圭子 妻	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	
	美咲 長女	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
	成美 二女	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
ライフイベント			二女 高校入学	長女 大学入学		二女 大学入学		長女就職		二女就職	旅行	
変動率												
収入	給与収入(本人)	1.0%	513	518	524	529	534	539	545	550	556	561
	給与収入(妻)	1.0%	112	113	114	115	116	117	118	120	121	122
	収入合計	—	625	631	638	644	650	656	663	670	677	683
支出	基本生活費	1.0%	241	243	246	248	251	253	256	258	261	264
	住宅関連費	0.0%										
	教育費(長女)	1.0%	45	45	171	138	139	141				
	教育費(二女)	1.0%	56	135	102	103	139	106	107	108		
	保険料	0.0%										
	その他支出	1.0%				34	35	35	36	36	36	37
	一時的支出	1.0%										61
	支出合計	—										
年間収支	—											
預貯金等残高	1.0%									2,220	2,436	

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。
 ※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記載の際は万円未満四捨五入したものをを使用すること。
 ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。
 ※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

問6 キャッシュフロー表 <第1章 Theme 2>

共働きの会社員である長谷川さん夫婦は、将来の資金設計についてCFP®認定者に相談し、キャッシュフロー表を作成してもらうことにしました。以下の設問A、Bについて、それぞれの答えを1～4の中から1つ選んでください。

<資料>

【収入に関する事項】

○給与収入（年間）

- ・宏行さん（本人）：現在350万円
- ・翔子さん（妻）：現在210万円（短時間勤務）
2032年から通常勤務となり、300万円（現在価値）となる。

○一時的収入

- ・学資保険の満期学資金：長男および長女の大学入学年である2040年、2041年にそれぞれ200万円

【支出に関する事項】

○基本生活費 年間300万円（現在価値）

○住宅関連費（賃貸マンション）

- ・家賃（管理費等込み）：年間108万円。今後も変わらないものとする。

○教育費

- ・長男は、小学校、中学校は公立、高校は私立、大学（四年制）は私立文系への進学を予定している。
- ・長女は、小学校、中学校は公立、高校は私立、大学（四年制）は私立理系への進学を予定している。

[教育費の現在価値]

	小学校	中学校		高校		大学	
	公立	公立	私立	公立	私立	私立文系	私立理系
年間教育費	30万円	50万円	120万円	40万円	90万円	90万円	120万円
入学一時金	—	10万円	40万円	10万円	30万円	30万円	30万円

※キャッシュフロー表の「教育費」について、小学校に入学する年の前年までに記載されている金額は、保育料である。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

○保険料

- ・2023年は年間44万円（学資保険の保険料が長男分および長女分それぞれ年間12万円、その他の保険料が年間20万円）

○その他支出

- ・レジャー、帰省等：毎年30万円（現在価値）

○一時的支出

- ・旅行：2029年に30万円、2038年、2042年にそれぞれ50万円（すべて現在価値）

【留意事項】

- ・キャッシュフロー表の同一の欄に計上する項目が複数ある場合、それらの合計額に変動率を適用し算出した金額によること。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

＜現状のキャッシュフロー表＞

(単位：万円)

経過年数			現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
家族・年齢	長谷川 宏行	本人	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
		翔子 妻	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
		大地 長男	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		七海 長女	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ライフイベント									長男 小学校 入学	長女 小学校 入学 旅行			
変動率													
収入	給与収入(本人)	1.0%	350	354	357	361	364						
	給与収入(妻)	1.0%	210	212	214	216	219						
	一時的収入	0.0%											
	収入合計	—	560	566	571	577	583	589				(ア)	
支出	基本生活費	1.0%	300	303	306	309	312	315	318				
	住宅関連費	0.0%	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108
	教育費(長男)	1.0%	40	25	22	23	23						
	教育費(長女)	1.0%	20	20	12	11	11						
	保険料	0.0%	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
	その他支出	1.0%	30	30	31	31							
	一時的支出	1.0%	0	0	0	0	0						
	支出合計	—	542	530	523	526	529		(イ)			579	582
年間収支	—	18	36	48	51	54	35				33	132	136
預貯金等残高	1.0%	400	440	492	548	607	648			688	728	867	1,012

経過年数			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
西暦(年)			2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043
家族・年齢	長谷川 宏行	本人	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
		翔子 妻	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
		大地 長男	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
		七海 長女	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
ライフイベント			長男 中学校 入学	長女 中学校 入学		長男 高校入学	長女 高校入学 旅行		長男 大学入学	長女 大学入学	旅行	
変動率												
収入	給与収入(本人)	1.0%			398	402	406	410	415	419	423	427
	給与収入(妻)	1.0%			341	345	348	352	355	359	362	366
	一時的収入	0.0%										
	収入合計	—				747	754	762				
支出	基本生活費	1.0%	335	338	341	345	348	352	355	359	362	366
	住宅関連費	0.0%	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108
	教育費(長男)	1.0%							142	108	109	110
	教育費(長女)	1.0%							107	179	145	146
	保険料	0.0%	44	44	44	44	44	44	44	32	20	20
	その他支出	1.0%	33	34	34	34	35	35	36	36	36	37
	一時的支出	1.0%										
	支出合計	—	620	648	641	726	836	751	792	822	840	787
年間収支	—	105	84	98	21	▲82	11	178	156	▲55	6	
預貯金等残高	1.0%	1,127	1,222	1,332	1,366	1,298	1,322	1,513	1,684	1,646	1,668	

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。
 ※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。
 ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。
 ※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

(設問A)

現状のキャッシュフロー表中の空欄(ア)、(イ)にあてはまる金額の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2017② 問題7改題)

1. (ア) 613 (イ) 566
2. (ア) 613 (イ) 598
3. (ア) 711 (イ) 566
4. (ア) 711 (イ) 598

(設問B)

CFP®認定者は以下の<見直し内容>を反映させたキャッシュフロー表を作成した。見直し後のキャッシュフロー表中の空欄(ウ)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては係数表を使用せず、電卓にて計算すること。(2017② 問題8改題)

<見直しの内容>

- ・基本生活費：年間300万円(現在価値)を、2024年から276万円(現在価値)に減らす。
- ・保険料：生命保険の保障の見直しにより、学資保険はそのまま継続し、2024年以降、その他の保険料を年間5万円減らす。

1. 2,100
2. 2,279
3. 2,288
4. 2,300

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
家族・年齢	長谷川 宏行	本人	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
		翔子 妻	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
		大地 長男	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		七海 長女	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ライフイベント								長男 小学校 入学	長女 小学校 入学 旅行				
			変動率										
収入	給与収入(本人)	1.0%	350	354	357	361	364						
	給与収入(妻)	1.0%	210	212	214	216	219						
	一時的収入	0.0%											
	収入合計	—	560	566	571	577	583	589					
支出	基本生活費	1.0%	300										
	住宅関連費	0.0%	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108
	教育費(長男)	1.0%	40	25	22	23	23						
	教育費(長女)	1.0%	20	20	12	11	11						
	保険料	0.0%	44	39	39	39							
	その他支出	1.0%	30	30	31	31							
	一時的支出	1.0%	0	0	0	0	0						
	支出合計	—	542	501	494	496	499						
年間収支	—	18	65	77	81	84	65						
預貯金等残高	1.0%	400	469	551	638	728	800	835	904	977	1,150	1,329	

経過年数			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
西暦(年)			2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043
家族・年齢	長谷川 宏行	本人	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
		翔子 妻	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
		大地 長男	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
		七海 長女	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
ライフイベント			長男 中学校 入学	長女 中学校 入学		長男 高校入学	長女 高校入学 旅行		長男 大学入学	長女 大学入学	旅行	
			変動率									
収入	給与収入(本人)	1.0%			398	402	406	410	415	419	423	427
	給与収入(妻)	1.0%			341	345	348	352	355	359	362	366
	一時的収入	0.0%										
	収入合計	—			739	747	754	762				
支出	基本生活費	1.0%								330	333	337
	住宅関連費	0.0%	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108
	教育費(長男)	1.0%			57	138	104	106	142	108	109	110
	教育費(長女)	1.0%			57	57	139	106	107	179	145	146
	保険料	0.0%										
	その他支出	1.0%				34	35	35	36	36	36	37
	一時的支出	1.0%	0	0	0	0						
	支出合計	—	588	616	609	693	803	718	759		806	753
年間収支	—	137	116	130	54	▲49	44	211		▲21	40	
預貯金等残高	1.0%	1,479	1,610	1,756	1,828	1,797	1,859	2,089	(ウ)		2,365	

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。
 ※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。
 ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。
 ※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

Theme 2 関連業法等の順守

問7 会員倫理規定 <第1章 Theme 4>

(2021② 問題1)

以下の文章は、CFP®認定者のあるべき姿を規範的に示した、特定非営利活動法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の「CFP®認定者の倫理原則」の抜粋である。文章の空欄（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

【第2原則】誠実性

誠実性をもって（ア）を提供しなければならない。誠実であるためには、専門家としてのすべての行動において正直であり（イ）であることが必要である。CFP®認定者は、顧客から信頼される立場にあり、こうした信頼の基となるのは、人間としての誠実さである。（省略）

【第4原則】公平性

専門家としてのすべての関係において、公平で道理をわきまえていなければならない。また、（ウ）を開示し、管理しなければならない。（省略）

1. （ア）専門的サービス （イ）公平無私 （ウ）利益相反
2. （ア）専門的サービス （イ）中立公正 （ウ）業務の遂行状況
3. （ア）公共的サービス （イ）中立公正 （ウ）利益相反
4. （ア）公共的サービス （イ）公平無私 （ウ）業務の遂行状況

問8 CFP®認定者の倫理原則 <第1章 Theme 4>

(2016② 問題1)

CFP®認定者は、そのあるべき姿を規範的に示した「CFP®認定者の倫理原則」に基づき、ファイナンシャル・プランニングの専門家として適切な行動をとらなければならない。特定非営利活動法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の「CFP®認定者の倫理原則」に関する次の記述の空欄（ア）～（ウ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

【第3原則】客観性

客観的に（ア）を提供しなければならない。

CFP®認定者は、いかなるサービスをどのような裁量で提供する場合においても、業務の誠実性を守り、（イ）を管理して専門家としての健全な判断を行使することが求められる。

【第4原則】公平性

専門家としてのすべての関係において、公平で道理をわきまえていなければならない。また、（イ）を開示し、管理しなければならない。

公平であるためには、業務契約についての情報を顧客に提供することが必要であり、重要な（イ）の開示が求められる。

【第5原則】専門家意識

専門家としての模範的な態度で行動しなければならない。

専門家意識を持つCFP®認定者は、（ウ）、職業に対する社会的なイメージ及び生活者の利益へ貢献する能力を維持し、向上させなければならない。

【第8原則】勤勉性

勤勉性をもって（ア）を提供しなければならない。

勤勉であるためには、時宜を得た完全な方法で専門家としての責任を果たすことが必要である。

勤勉性の原則を順守するためには、CFP®認定者は、（ア）を適切に計画、管理及び提供することが求められる。

1. (ア) 公共的サービス (イ) 個人情報 (ウ) 自身で又は他の専門家と共に
2. (ア) 専門的サービス (イ) 個人情報 (ウ) どのような状況においても単独で
3. (ア) 専門的サービス (イ) 利益相反 (ウ) 自身で又は他の専門家と共に
4. (ア) 公共的サービス (イ) 利益相反 (ウ) どのような状況においても単独で

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

問9 著作権法 <第1章 Theme 7>

(2018② 問題2)

C F P®認定者は、著作権について正しく理解しておくことが必要である。著作権法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 新聞または雑誌に掲載された社会上の時事問題に関する論説（学術的な性質を有するものではない）は、利用を禁止する旨の表示がない限り、他の新聞または雑誌に転載することができる。
2. 大学の講師は、マネー雑誌など公表された著作物の一部を授業に必要な範囲でコピーし、出典を明示したうえで、学生に配布して授業の資料とすることができる。
3. 官公庁が一般に周知するため作成・公表した広報資料や統計データは、転載を禁止する旨の表示がない限り、説明の材料として雑誌に転載することができる。
4. 市町村が主催する一般公募コンクールの応募作品として作成された小学生の作文や幼稚園児の絵は著作物には当たらないため、自由に転載することができる。

問10 個人情報保護法 <第1章 Theme 7>

(2019② 問題3)

「個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）」に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 個人情報取扱事業者は、一定の要件の下、匿名加工情報を第三者へ提供することができる。
2. 個人情報取扱事業者が、要配慮個人情報を取得するには、一定の場合を除き、あらかじめ本人の同意を得る必要がある。
3. 指紋など特定の個人の身体の一部の特徴を電子計算機の用に供するために変換した符号などの個人識別符号が含まれる情報は、生存する個人に関するものであれば個人情報に該当する。
4. 個人情報取扱事業者は、変更前の利用目的との関連性を有すると合理的に認められる範囲を超えるときでも、本人の同意を得れば個人情報の利用目的を変更することができる。

問11 消費者契約法 <第1章 Theme 5>

(2022① 問題2)

消費者契約法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 消費者契約の取消権は、追認をすることができる時から1年間行使しないとき、または当該消費者契約の締結時から3年を経過したときは、時効により消滅する。
2. 事業者に対し、消費者が後見開始、保佐開始または補助開始の審判を受けたことのみを理由とする解除権を付与する消費者契約の条項は、無効とされる。
3. 事業者の債務不履行により生じた消費者の解除権を放棄させ、または当該事業者にその解除権の有無を決定する権限を付与する消費者契約の条項は、無効とされる。
4. 事業者が消費者契約締結の勧誘をする際、消費者に対し重要事項について事実と異なることを告げ、消費者が告げられた内容が事実であると誤認したことによって消費者契約の申込みの意思表示をしたときは、消費者はこれを取り消すことができる。

Theme 3 係数を使う問題

問12 老後資金の積立て <第1章 Theme 3>

(2019② 問題9改題)

会社員の露木さんは、2033年3月末に定年退職をする予定である。露木さんは退職後の生活資金を準備するため、2023年4月1日から資金運用を開始する。定年退職後は蓄えた資金と退職一時金を複利運用しながら、30年間にわたり毎年3月末に一定金額を取り崩して受け取るほか、自動車の購入資金に充てたいと考えている。以下の<条件>に基づく場合、2027年4月1日からの6年間にわたり毎年3月末に積み立てるべき一定金額（最少額）として、正しいものはどれか。なお、運用益についての税金等は考慮しないものとする。また、計算に当たっては、次の係数表を乗算で使用し、計算過程で端数が生じた場合は円未満を四捨五入し、解答に当たっては万円未満を切り上げること。

<条件>

- ・2023年4月1日から退職時までの10年間は、用意した貯蓄350万円（2023年3月末時点）を、年利2.0%で複利運用する。
- ・2023年4月1日からの4年間は、毎年3月末に30万円を積み立てながら、年利1.0%で複利運用し、2027年4月1日からの6年間は、その資金を年利2.0%で複利運用する。
- ・2027年4月1日からの6年間は、毎年3月末に一定金額を積み立てながら、年利2.0%で複利運用する。
- ・2033年3月末に退職一時金1,100万円（手取り額）を受け取る。
- ・退職後は、蓄えた資金と受け取った退職一時金を年利1.5%で複利運用しながら、30年間にわたり毎年3月末に65万円ずつ取り崩す。
- ・退職時から4年間、年利1.5%で複利運用し、2037年3月末に自動車購入資金として220万円を取り崩す。

<係数表> ※係数表の数値は正しいものとする。

[終価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	1.041	1.061	1.082
6年	1.062	1.093	1.126
10年	1.105	1.161	1.219
30年	1.348	1.563	1.811

[現価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	0.961	0.942	0.924
6年	0.942	0.915	0.888
10年	0.905	0.862	0.820
30年	0.742	0.640	0.552

[年金終価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	4.060	4.091	4.122
6年	6.152	6.230	6.308
10年	10.462	10.703	10.950
30年	34.785	37.539	40.568

[年金現価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	3.902	3.854	3.808
6年	5.795	5.697	5.601
10年	9.471	9.222	8.983
30年	25.808	24.016	22.396

[資本回収係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	0.256	0.259	0.263
6年	0.173	0.176	0.179
10年	0.106	0.108	0.111
30年	0.039	0.042	0.045

[減債基金係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	0.246	0.244	0.243
6年	0.163	0.161	0.159
10年	0.096	0.093	0.091
30年	0.029	0.027	0.025

1. 17万円
2. 19万円
3. 20万円
4. 23万円

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

問13 老後資金の取り崩し <第1章 Theme 3>

(2019② 問題10改題)

2023年3月末に定年退職を迎える浅尾さんは、退職一時金と自助努力で準備した老後のための資金を、2023年4月1日からの30年間、複利運用しながら取り崩して生活費などに充てる予定である。以下の<条件>に基づく場合、2023年4月1日から2038年3月末までの当初15年間、毎年3月末に取り崩すことができる一定金額（最大額）として、正しいものはどれか。なお、運用益についての税金等は考慮しないものとする。また、計算に当たっては、下記の係数表を乗算で使用し、計算過程で端数が生じた場合は円未満を四捨五入し、解答に当たっては万円未満を切り捨てること。

<条件>

- ・退職一時金と自助努力で準備した老後のための資金の合計は2,600万円（2023年3月末時点）である。
- ・2023年4月1日から2038年3月末までの当初15年間は、年利1.5%で複利運用しながら毎年3月末に一定金額を取り崩す。
- ・2038年4月1日からの15年間は、年利1.0%で複利運用しながら毎年3月末に60万円を取り崩す。
- ・2023年4月1日から5年間にわたり年利1.5%で複利運用し、5年経過後の2028年3月末に自宅のリフォーム資金として、700万円を取り崩す。

<係数表> ※係数表の数値は正しいものとする。

[終価係数]

期間	1.0%	1.5%
5年	1.051	1.077
15年	1.161	1.250

[現価係数]

期間	1.0%	1.5%
5年	0.951	0.928
15年	0.861	0.800

[年金終価係数]

期間	1.0%	1.5%
5年	5.101	5.152
15年	16.097	16.682

[年金現価係数]

期間	1.0%	1.5%
5年	4.853	4.783
15年	13.865	13.343

[資本回収係数]

期間	1.0%	1.5%
5年	0.206	0.209
15年	0.072	0.075

[減債基金係数]

期間	1.0%	1.5%
5年	0.196	0.194
15年	0.062	0.060

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

1. 83万円
2. 92万円
3. 96万円
4. 98万円

問14 老後の資金の取崩し <第1章 Theme 3>

(2018② 問題10改題)

2024年3月末に定年退職を迎える増田さんは、退職一時金と自助努力で準備した老後のための資金を、2024年4月1日から複利運用しながら取り崩して生活費などに充てる計画を立てている。以下の<当初の計画>を実現できる必要最小限の金額が2024年3月末に準備できていたときに、<変更後の計画>に計画を変更した場合、2024年4月1日から2034年3月末までの当初10年間、毎年3月末に取り崩すことができる一定金額（最大額）として、正しいものはどれか。なお、運用益についての税金等は考慮しないものとする。また、計算に当たっては、次の係数表を乗算で使用し、計算過程で端数が生じた場合は円未満を四捨五入し、解答に当たっては万円未満を切り捨てること。

<当初の計画> (25年間で取り崩す計画)

- ・2024年4月1日から2049年3月末までの25年間、年利2.0%で複利運用しながら毎年3月末に120万円を取り崩す。

<変更後の計画> (30年間で取り崩す計画)

- ・2024年4月1日から5年間にわたり年利1.0%で複利運用し、5年経過後の2029年3月末に自宅のリフォーム資金として、500万円を取り崩す。
- ・2024年4月1日から2034年3月末までの当初10年間は、年利1.0%で複利運用しながら毎年3月末に一定金額を取り崩す。
- ・2034年4月1日からの20年間は、年利2.0%で複利運用しながら毎年3月末に96万円を取り崩す。

<係数表> ※係数表の数値は正しいものとする。

[終価係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	1.051	1.104
10年	1.105	1.219
20年	1.220	1.486
25年	1.282	1.641

[現価係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	0.951	0.906
10年	0.905	0.820
20年	0.820	0.673
25年	0.780	0.610

[年金終価係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	5.101	5.204
10年	10.462	10.950
20年	22.019	24.297
25年	28.243	32.030

[年金現価係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	4.853	4.713
10年	9.471	8.983
20年	18.046	16.351
25年	22.023	19.523

[減債基金係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	0.196	0.192
10年	0.096	0.091
20年	0.045	0.041
25年	0.035	0.031

[資本回収係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	0.206	0.212
10年	0.106	0.111
20年	0.055	0.061
25年	0.045	0.051

1. 44万円
2. 47万円
3. 49万円
4. 97万円

問15 老後資金の取崩し <第1章 Theme 3>

(2021② 問題8改題)

安藤さんは2023年3月末に定年退職を迎え、退職一時金を受け取る。定年後の5年間は、雇用形態は変わるものの引き続き就労して、2028年3月末にリタイアする予定である。リタイア後の2028年4月1日以降は、退職一時金と自助努力で準備した老後のための資金を、複利運用しながら取り崩して生活費などに充てる計画を立てている。以下の<条件>に基づく場合、2028年4月1日からの10年間、毎年3月末に取り崩すことができる一定金額(最大額)として、正しいものはどれか。なお、運用益についての税金等は考慮しないものとする。また、計算に当たっては、次の係数表を乗算で使用し、計算過程で端数が生じた場合は円未満を四捨五入し、解答に当たっては万円未満を切り捨てること。

<条件>

[リタイア前]

- ・退職一時金と自助努力で準備した老後のための資金の合計は2,800万円(2023年3月末時点)である。
- ・2023年4月1日から2028年3月末までの5年間、上記の資金を年利2.0%で複利運用する。
- ・2023年4月1日から2028年3月末までの5年間、毎年3月末に60万円を積み立てながら、年利2.0%で複利運用して、追加の老後資金を準備する。

[リタイア後]

- ・2028年4月1日から2038年3月末までの10年間、年利1.5%で複利運用しながら毎年3月末に一定金額を取り崩す。
- ・2038年4月1日から2058年3月末までの20年間、年利1.0%で複利運用しながら毎年3月末に100万円を取り崩す。
- ・2028年4月1日から2035年3月末までの7年間、年利1.5%で複利運用した後、2035年3月末にリフォーム資金として800万円を取り崩す。

<係数表> ※係数表の数値は正しいものとする。

[終価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	1.051	1.077	1.104
7年	1.072	1.110	1.149
10年	1.105	1.161	1.219
20年	1.220	1.347	1.486

[現価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	0.951	0.928	0.906
7年	0.933	0.901	0.871
10年	0.905	0.862	0.820
20年	0.820	0.742	0.673

[年金終価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	5.101	5.152	5.204
7年	7.214	7.323	7.434
10年	10.462	10.703	10.950
20年	22.019	23.124	24.297

[年金現価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	4.853	4.783	4.713
7年	6.728	6.598	6.472
10年	9.471	9.222	8.983
20年	18.046	17.169	16.351

[資本回収係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	0.206	0.209	0.212
7年	0.149	0.152	0.155
10年	0.106	0.108	0.111
20年	0.055	0.058	0.061

[減債基金係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	0.196	0.194	0.192
7年	0.139	0.137	0.135
10年	0.096	0.093	0.091
20年	0.045	0.043	0.041

1. 90万円
2. 94万円
3. 113万円
4. 121万円

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

問16 老後資金の取崩し <第1章 Theme 3>

(2019① 問題10改題)

2024年3月末に定年退職を迎える平尾さんは、退職一時金と自助努力で準備した老後のための資金を、2024年4月1日から複利運用しながら取り崩して生活費などに充てる予定である。以下の<条件>に基づく場合、2034年4月1日から2054年3月末までの20年間、毎年3月末に取り崩すことができる一定金額（最大額）として、正しいものはどれか。なお、運用益についての税金等は考慮しないものとする。また、計算に当たっては、次の係数表を乗算で使用し、計算過程で端数が生じた場合は円未満を四捨五入し、解答に当たっては万円未満を切り捨てること。

<条件>

- ・退職一時金と自助努力で準備した老後のための資金の合計は2,600万円（2024年3月末時点）である。
- ・2024年4月1日から5年間にわたり年利1.0%で複利運用し、5年経過後の2029年3月末に長男の結婚資金の援助として、400万円を取り崩す。
- ・2024年4月1日から2034年3月末までの当初10年間は、年利1.0%で複利運用しながら毎年3月末に80万円を取り崩す。
- ・2034年4月1日からの20年間は、年利2.0%で複利運用しながら毎年3月末に一定金額を取り崩す。

<係数表> ※係数表の数値は正しいものとする。

[終価係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	1.051	1.104
10年	1.105	1.219
20年	1.220	1.486

[現価係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	0.951	0.906
10年	0.905	0.820
20年	0.820	0.673

[年金終価係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	5.101	5.204
10年	10.462	10.950
20年	22.019	24.297

[年金現価係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	4.853	4.713
10年	9.471	8.983
20年	18.046	16.351

[資本回収係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	0.206	0.212
10年	0.106	0.111
20年	0.055	0.061

[減債基金係数]

期間	1.0%	2.0%
5年	0.196	0.192
10年	0.096	0.091
20年	0.045	0.041

1. 89万円
2. 97万円
3. 98万円
4. 101万円

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

問17 老後資金の積立て <第1章 Theme 3>

(2019年① 問題9改題)

会社員の細井さんは、2035年3月末に定年退職をする予定である。細井さんは退職後の生活資金を準備するため、2023年4月1日から資金運用を開始する。定年退職後は蓄えた資金と退職一時金を複利運用しながら、30年間にわたり毎年3月末に一定金額を取り崩して受け取るほか、自宅のリフォーム資金に充てたいと考えている。以下の<条件>に基づく場合、2023年4月1日からの5年間にわたり毎年3月末に積み立てるべき一定金額（最少額）として、正しいものはどれか。なお、運用益についての税金等は考慮しないものとする。また、計算に当たっては、次の係数表を乗算で使用し、計算過程で端数が生じた場合は円未満を四捨五入し、解答に当たっては万円未満を切り上げること。

<条件>

- ・2023年4月1日から退職時までの12年間は、用意した貯蓄450万円（2023年3月末時点）を、当初5年間は年利1.0%、その後の7年間は年利2.0%で複利運用する。
- ・2023年4月1日からの5年間は、毎年3月末に一定金額を積み立てながら、年利1.0%で複利運用し、2028年4月1日からの7年間は、積み立てた額を年利2.0%で複利運用する。
- ・2028年4月1日からの7年間は、毎年3月末に50万円を積み立てながら、年利2.0%で複利運用する。
- ・2035年3月末に退職一時金1,500万円（手取り額）を受け取る。
- ・退職後は、蓄えた資金と受け取った退職一時金を年利1.5%で複利運用しながら、30年間にわたり毎年3月末に80万円ずつ取り崩す。
- ・退職時から10年間、年利1.5%で複利運用し、2045年3月末に自宅のリフォーム資金として800万円を取り崩す。

<係数表> ※係数表の数値は正しいものとする。

[終価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	1.051	1.077	1.104
7年	1.072	1.110	1.149
10年	1.105	1.161	1.219
30年	1.348	1.563	1.811

[現価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	0.951	0.928	0.906
7年	0.933	0.901	0.871
10年	0.905	0.862	0.820
30年	0.742	0.640	0.552

[年金終価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	5.101	5.152	5.204
7年	7.214	7.323	7.434
10年	10.462	10.703	10.950
30年	34.785	37.539	40.568

[年金現価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	4.853	4.783	4.713
7年	6.728	6.598	6.472
10年	9.471	9.222	8.983
30年	25.808	24.016	22.396

[資本回収係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	0.206	0.209	0.212
7年	0.149	0.152	0.155
10年	0.106	0.108	0.111
30年	0.039	0.042	0.045

[減債基金係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
5年	0.196	0.194	0.192
7年	0.139	0.137	0.135
10年	0.096	0.093	0.091
30年	0.029	0.027	0.025

1. 34万円
2. 37万円
3. 39万円
4. 53万円

◆第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識◆

問18 老後資金の積立て <第1章 Theme 3>

(2022① 問題7改題)

会社員の大下さんは、2034年3月末に定年退職をする予定である。大下さんは退職後の生活資金を準備するため、2024年4月1日から資金運用を開始する。退職後は蓄えた資金と退職一時金を複利運用しながら、30年間にわたり毎年3月末に一定金額を取り崩して受け取るほか、住宅のリフォーム費用に充てたいと考えている。以下の<条件>に基づく場合、2030年4月1日からの4年間において毎年3月末に積み立てるべき一定金額(最少額)として、正しいものはどれか。なお、運用益についての税金等は考慮しないものとする。また、計算に当たっては、次の係数表を乗算で使用し、計算過程で端数が生じた場合は円未満を四捨五入し、解答に当たっては万円未満を切り上げること。

<条件>

- ・用意した貯蓄370万円(2024年3月末時点)を、2024年4月1日から2034年3月末までの10年間、年利1.5%で複利運用する。
- ・2024年4月1日から2030年3月末までの6年間は、毎年3月末に20万円を積み立てながら、年利1.0%で複利運用し、積み立てた金額を2030年4月1日から2034年3月末までの4年間は年利2.0%で複利運用する。
- ・2030年4月1日から2034年3月末までの4年間、毎年3月末に一定金額を積み立てながら、年利2.0%で複利運用する。
- ・2034年3月末に退職一時金1,600万円(手取り額)を受け取る。
- ・退職時から30年間、蓄えた資金と受け取った退職一時金を年利1.0%で複利運用しながら、毎年3月末に70万円ずつ取り崩す。
- ・退職時から6年間、年利1.0%で複利運用し、2040年3月末にリフォーム資金として500万円を取り崩す。

<係数表> ※係数表の数値は正しいものとする。

[終価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	1.041	1.061	1.082
6年	1.062	1.093	1.126
10年	1.105	1.161	1.219
30年	1.348	1.563	1.811

[現価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	0.961	0.942	0.924
6年	0.942	0.915	0.888
10年	0.905	0.862	0.820
30年	0.742	0.640	0.552

[年金終価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	4.060	4.091	4.122
6年	6.152	6.230	6.308
10年	10.462	10.703	10.950
30年	34.785	37.539	40.568

[年金現価係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	3.902	3.854	3.808
6年	5.795	5.697	5.601
10年	9.471	9.222	8.983
30年	25.808	24.016	22.396

[資本回収係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	0.256	0.259	0.263
6年	0.173	0.176	0.179
10年	0.106	0.108	0.111
30年	0.039	0.042	0.045

[減債基金係数]

期間	1.0%	1.5%	2.0%
4年	0.246	0.244	0.243
6年	0.163	0.161	0.159
10年	0.096	0.093	0.091
30年	0.029	0.027	0.025

1. 28万円
2. 30万円
3. 31万円
4. 35万円

第1章 ファイナンシャルプランニングの基礎知識

問1（設問A）

4

（ア）2026年（3年後）の支出合計

教育費（長女、大学私立文系初年度）：

$$(85\text{万円} + 30\text{万円}) \times (1 + 0.01)^3 \approx 118\text{万円} \text{（万円未満四捨五入）}$$

自動車関連費：

$$(20\text{万円} + 10\text{万円}) \times (1 + 0.01)^3 \approx 31\text{万円} \text{（万円未満四捨五入）}$$

・基本生活費	371万円
・住宅関連費	166万円
・教育費（長男）	124万円
・教育費（長女）	118万円
・生命保険料	24万円
・自動車関連費	31万円
・その他支出	10万円
・一時的支出	0円
【支出合計】	<u>844万円</u>

(イ) 2031年（8年後）の年間収支

給与収入（妻）： $120万円 \times (1 + 0.01)^8 \approx 130万円$ （万円未満四捨五入）

・給与収入（本人）	596万円
・給与収入（妻）	130万円
・一時的収入	0円

【収入合計】 726万円

基本生活費： $300万円 \times (1 + 0.01)^8 \approx 325万円$ （万円未満四捨五入）

自動車関連費： $20万円 \times (1 + 0.01)^8 \approx 22万円$ （万円未満四捨五入）

一時的支出： $30万円 \times (1 + 0.01)^8 \approx 32万円$ （万円未満四捨五入）

・基本生活費	325万円
・住宅関連費	166万円
・教育費（長男）	0円
・教育費（長女）	0円
・生命保険料	24万円
・自動車関連費	22万円
・その他支出	11万円
・一時的支出	32万円

【支出合計】 580万円

よって、2031年の年間収支は、 $726万円 - 580万円 = 146万円$ となる。

＜現状のキャッシュフロー表＞

(単位：万円)

経過年数			基準年	1	2	3	4	5	6	7
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
家族・年齢	池谷 正一	本人	49	50	51	52	53	54	55	56
	直子	妻	47	48	49	50	51	52	53	54
	隆之	長男	18	19	20	21	22	23	24	25
	未来	長女	16	17	18	19	20	21	22	23
ライフイベント		変動率	長女 高校入学	長男 大学入学		長女 大学入学	家族旅行	長男就職		長女就職 自動車 買替え
収入	給与収入(本人)	1.0%	550	556	561	567	572	578	584	590
	給与収入(妻)	1.0%	120	121	122	124	125	126	127	129
	一時的収入	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	収入合計	—	670	677	683	691	697	704	711	719
支出	基本生活費	1.0%	360	364	367	371	375	378	382	386
	住宅関連費	0.0%	166	166	166	166	166	166	166	166
	教育費(長男)	1.0%	90	152	122	124	125	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	125	91	92	118	88	89	90	0
	生命保険料	0.0%	24	24	24	24	24	24	24	24
	自動車関連費	1.0%	20	30	20	31	21	32	21	289
	その他支出	1.0%	10	10	10	10	10	11	11	11
	一時的支出	1.0%	0	0	0	0	31	0	0	0
支出合計	—	795	837	801	(ア) 844	840	700	694	876	
年間収支	—	▲125	▲160	▲118	▲153	▲143	4	17	▲157	
預貯金等残高	1.0%	1,500	1,355	1,251	1,111	979	993	1,020	873	

経過年数			8	9	10	11	12	13	14	15
西暦(年)			2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
家族・年齢	池谷 正一	本人	57	58	59	60	61	62	63	64
	直子	妻	55	56	57	58	59	60	61	62
	隆之	長男	26	27	28	29	30	31	32	33
	未来	長女	24	25	26	27	28	29	30	31
ライフイベント		変動率	家族旅行			夫退職 夫婦旅行	夫 継続雇用	妻 退職		
収入	給与収入(本人)	1.0%	596	602	608	614	394	398	402	406
	給与収入(妻)	1.0%	130	131	133	134	135	137	0	0
	一時的収入	0.0%	0	0	0	2,000	0	0	0	0
	収入合計	—	726	733	741	2,748	529	535	402	406
支出	基本生活費	1.0%	325	328	331	335	338	341	345	348
	住宅関連費	0.0%	166	166	166	166	166	166	166	166
	教育費(長男)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	生命保険料	0.0%	24	24	24	24	24	24	24	24
	自動車関連費	1.0%	22	22	33	22	34	23	34	23
	その他支出	1.0%	11	11	11	11	11	11	11	12
	一時的支出	1.0%	32	0	0	67	0	0	0	0
支出合計	—	580	551	565	625	573	565	580	573	
年間収支	—	(イ) 146	182	176	2,123	▲44	▲30	▲178	▲167	
預貯金等残高	1.0%	1,028	1,220	1,408	3,545	3,536	3,541	3,398	3,265	

問1（設問B）

3

(ウ) 2035年の預貯金等残高

給与収入（本人）： $350\text{万円} \times (1 + 0.01)^{12} \approx 394\text{万円}$ （万円未満四捨五入）

給与収入（妻）： $160\text{万円} \times (1 + 0.01)^{12} \approx 180\text{万円}$ （万円未満四捨五入）

・給与収入（本人）	394万円
・給与収入（妻）	180万円
・一時的収入	0円

【収入合計】 574万円

基本生活費： $300\text{万円} \times (1 + 0.01)^{12} \approx 338\text{万円}$ （万円未満四捨五入）

自動車関連費： $(20\text{万円} + 10\text{万円}) \times (1 + 0.01)^{12} \approx 34\text{万円}$ （万円未満四捨五入）

・基本生活費	338万円
・住宅関連費	144万円
・教育費（長男）	0円
・教育費（長女）	0円
・生命保険料	24万円
・自動車関連費	34万円
・その他支出	11万円
・一時的支出	0円

【支出合計】 551万円

2035年の年間収支： $574\text{万円} - 551\text{万円} = 23\text{万円}$

よって、2035年の預貯金等残高は、

前年の預貯金残高 $3,711\text{万円} \times (1 + 0.01) + \text{年間収支}23\text{万円} \approx \underline{3,771}\text{万円}$ となる。

＜見直し後のキャッシュフロー表＞

(単位：万円)

経過年数			基準年	1	2	3	4	5	6	7
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
家族・年齢	池谷 正一	本人	49	50	51	52	53	54	55	56
	直子	妻	47	48	49	50	51	52	53	54
	隆之	長男	18	19	20	21	22	23	24	25
	未来	長女	16	17	18	19	20	21	22	23
ライフイベント		変動率	長女 高校入学	長男 大学入学 ローン 借換え		長女 大学入学	家族旅行	長男就職		長女就職 自動車 買替え
収入	給与収入(本人)	1.0%	550	556	561	567	572	578	584	590
	給与収入(妻)	1.0%	120	162	163	165	166	168	170	172
	一時的収入	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	収入合計	—	670	718	724	732	738	746	754	762
支出	基本生活費	1.0%	360	364	367	371	375	378	382	386
	住宅関連費	0.0%	166	203	144	144	144	144	144	144
	教育費(長男)	1.0%	90	152	122	124	125	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	125	91	92	118	88	89	90	0
	生命保険料	0.0%	24	24	24	24	24	24	24	24
	自動車関連費	1.0%	20	30	20	31	21	32	21	289
	その他支出	1.0%	10	10	10	10	10	11	11	11
	一時的支出	1.0%	0	0	0	0	31	0	0	0
支出合計	—	795	874	779	822	818	678	672	854	
年間収支	—	▲125	▲156	▲55	▲90	▲80	68	82	▲92	
預貯金等残高	1.0%	1,500	1,359	1,318	1,241	1,173	1,253	1,348	1,269	

経過年数			8	9	10	11	12	13	14	15
西暦(年)			2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
家族・年齢	池谷 正一	本人	57	58	59	60	61	62	63	64
	直子	妻	55	56	57	58	59	60	61	62
	隆之	長男	26	27	28	29	30	31	32	33
	未来	長女	24	25	26	27	28	29	30	31
ライフイベント		変動率	家族旅行 ローン 繰上げ 返済			夫退職 夫婦旅行	夫 継続雇用	妻 退職		
収入	給与収入(本人)	1.0%	596	602	608	614	394	398	402	406
	給与収入(妻)	1.0%	173	175	177	179	180	182	0	0
	一時的収入	0.0%	0	0	0	2,000	0	0	0	0
	収入合計	—	769	777	785	2,793	574	580	402	406
支出	基本生活費	1.0%	325	328	331	335	338	341	345	348
	住宅関連費	0.0%	644	144	144	144	144	144	144	144
	教育費(長男)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	生命保険料	0.0%	24	24	24	24	24	24	24	24
	自動車関連費	1.0%	22	22	33	22	34	23	34	23
	その他支出	1.0%	11	11	11	11	11	11	11	12
	一時的支出	1.0%	32	0	0	67	0	0	0	0
支出合計	—	1,058	529	543	603	551	543	558	551	
年間収支	—	▲289	248	242	2,190	23	37	▲156	▲145	
預貯金等残高	1.0%	993	1,251	1,506	3,711	(ウ)3,771	3,846	3,728	3,620	

問2 (設問A)

4

(ア) 7年後の預貯金等残高

基本生活費：264万円×(1+0.01)⁷≒283.0437万円

→ 283万円 (万円未満四捨五入)

教育費(長女)：30万円×(1+0.01)⁷≒32.1640万円

→ 32万円 (万円未満四捨五入)

教育費(二女)：30万円×(1+0.01)⁷≒32.1640万円

→ 32万円 (万円未満四捨五入)

その他支出：20万円×(1+0.01)⁷≒21.4427万円

→ 21万円 (万円未満四捨五入)

支出合計：基本生活費283万円+住宅関連費120万円+教育費(長女)32万円

+教育費(二女)32万円+保険料6万円+その他支出21万円

=494万円

年間収支：531万円-494万円=37万円

預貯金等残高：649万円×(1+0.01)+37万円=692.49万円

→ 692万円 (万円未満四捨五入)

(イ) 10年後の年間収支

その他支出：20万円×(1+0.01)¹⁰≒22.0924万円

→ 22万円 (万円未満四捨五入)

一時的支出：40万円×(1+0.01)¹⁰≒44.1848万円

→ 44万円 (万円未満四捨五入)

支出合計：基本生活費292万円+住宅関連費120万円+教育費(長女)33万円

+教育費(二女)33万円+保険料6万円+その他支出22万円

+一時的支出44万円=550万円

年間収支：収入合計635万円-支出合計550万円=85万円

＜現状のキャッシュフロー表＞

(単位：万円)

経過年数			現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
家族・年齢	宮本 小五郎	本人	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	静香	妻	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
	さくら	長女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	もも	二女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ライフイベント										長女二女 小学校入学			家族旅行
			変動率										
収入	給与収入(本人)	1.0%	315	318	321	325	328	331	334	338	341	345	348
	給与収入(妻)	1.0%		182	184	185	187	189	191	193	195	197	287
	一時的収入	0.0%											
	その他収入	0.0%	154										
	収入合計	—	469	500	505	510	515	520	525	531	536	542	635
支出	基本生活費	1.0%	264	267	269	272	275	277	280	283	286	289	292
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120
	教育費(長女)	1.0%	0	48	49	31	31	32	32	32	32	33	33
	教育費(二女)	1.0%	0	24	24	15	16	16	16	32	32	33	33
	保険料	0.0%	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	その他支出	1.0%	20	20	20	21	21	21	21	21	22	22	22
	一時的支出	1.0%											44
	支出合計	—	410	485	488	465	469	472	475	494	498	503	550
年間収支	—	59	15	17	45	46	48	50	37	38	39	(イ)85	
預貯金等残高	1.0%	400	419	440	489	540	593	649	(ア)692	737	783	876	

経過年数			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
西暦(年)			2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043
家族・年齢	宮本 小五郎	本人	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
	静香	妻	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
	さくら	長女	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	もも	二女	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ライフイベント					長女二女 中学入学			長女二女 高校入学			長女二女 大学入学 家族旅行	
			変動率									
収入	給与収入(本人)	1.0%	351	355	358	362	366	369	373	377	381	384
	給与収入(妻)	1.0%	290	293	296	299	302	305	308	311	314	317
	一時的収入	0.0%										
	その他収入	0.0%										
	収入合計	—	641	648	654	661	668	674	681	688	695	701
支出	基本生活費	1.0%	295	297	300	303	306	310	313	316	319	322
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120
	教育費(長女)	1.0%	33	34	57	46	46	53	41	42	175	140
	教育費(二女)	1.0%	33	34	57	46	46	53	41	42	175	140
	保険料	0.0%	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	その他支出	1.0%	22	23	23	23	23	23	24	24	24	24
	一時的支出	1.0%									72	
	支出合計	—	509	514	563	544	547	565	545	550	891	752
年間収支	—	132	134	91	117	121	109	136	138	▲196	▲51	
預貯金等残高	1.0%	1,017	1,161	1,264	1,394	1,529	1,653	1,806	1,962	1,786	1,753	

問2（設問B）

3

（ウ）5年後の支出合計

毎年の基本生活費：20万円×12ヵ月＝240万円

基本生活費：240万円× $(1+0.01)^5 \approx 252.2424$ 万円

→ 252万円（万円未満四捨五入）

住宅関連費：132万円＋22万円＝154万円

保険料：48万円

その他支出：20万円× $(1+0.01)^5 \approx 21.0202$ 万円

→ 21万円（万円未満四捨五入）

支出合計：基本生活費252万円＋住宅関連費154万円＋教育費（長女）32万円

＋教育費（二女）16万円＋保険料48万円＋その他支出21万円

＋一時的支出2,815万円＝3,338万円

＜見直し後のキャッシュフロー表＞

(単位：万円)

経過年数			現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
家族・年齢	宮本 小五郎	本人	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	
		静香	妻	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
		さくら	長女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		もも	二女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ライフイベント								住宅購入		長女二女 小学校入学			家族旅行	
			変動率											
収入	給与収入(本人)	1.0%	315	318	321	325	328	331	334	338	341	345	348	
	給与収入(妻)	1.0%		182	184	185	187	189	191	193	195	197	287	
	一時的収入	0.0%						2,500						
	その他収入	0.0%	154											
	収入合計	—	469	500	505	510	515	3,020	525	531	536	542	635	
支出	基本生活費	1.0%	264	242	245	247	250	252	255	257	260	262	265	
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	154	154	154	154	154	154	
	教育費(長女)	1.0%	0	48	49	31	31	32	32	32	32	33	33	
	教育費(二女)	1.0%	0	24	24	15	16	16	16	32	32	33	33	
	保険料	0.0%	6	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	
	その他支出	1.0%	20	20	20	21	21	21	21	21	22	22	22	
	一時的支出	1.0%						2,815					44	
	支出合計	—	410	502	506	482	486	(注)3,338	526	544	548	552	599	
年間収支	—	59	▲2	▲1	28	29	▲318	▲1	▲13	▲12	▲10	36		
預貯金等残高	1.0%	400	402	405	437	470	157	158	147	136	127	164		

経過年数			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
西暦(年)			2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	
家族・年齢	宮本 小五郎	本人	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	
		静香	妻	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
		さくら	長女	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		もも	二女	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ライフイベント					長女二女 中学入学			長女二女 高校入学			長女二女 大学入学 家族旅行		
			変動率										
収入	給与収入(本人)	1.0%	351	355	358	362	366	369	373	377	381	384	
	給与収入(妻)	1.0%	290	293	296	299	302	305	308	311	314	317	
	一時的収入	0.0%									580		
	その他収入	0.0%											
	収入合計	—	641	648	654	661	668	674	681	688	1,275	701	
支出	基本生活費	1.0%	268	270	273	276	279	281	284	287	290	293	
	住宅関連費	0.0%	154	154	154	154	154	154	154	154	154	154	
	教育費(長女)	1.0%	33	34	57	46	46	53	41	42	175	140	
	教育費(二女)	1.0%	33	34	57	46	46	53	41	42	175	140	
	保険料	0.0%	48	48	48	48	48	48	48	48	48	17	
	その他支出	1.0%	22	23	23	23	23	23	24	24	24	24	
	一時的支出	1.0%									72		
	支出合計	—	558	563	612	593	596	612	592	597	938	768	
年間収支	—	83	85	42	68	72	62	89	91	337	▲67		
預貯金等残高	1.0%	249	336	381	453	530	597	692	790	1,135	1,079		

問2（設問C）

2

自宅の購入年末の時価は2,400万円で、住宅ローンの購入年末の残高は2,424万円（＝借入額2,500万円－元本返済額76万円）である。バランスシートの空欄を埋めると以下のとおりである。

<宮本家のバランスシート>

資産		負債および純資産	
預貯金等	157万円	負債	
自宅	2,400万円	住宅ローン	(オ) 2,424万円
		負債合計	2,424万円
		純資産	133万円
資産合計	(エ) 2,557万円	負債・純資産合計	2,557万円

問3 (設問A)

4

(ア) 2年後の年間収支

・収入に関する事項 (空欄)

給与収入 (夫) : $540\text{万円} \times (1 + 0.01)^2 \approx 550.8$

→ 551万円 (万円未満四捨五入)

収入合計 : 給与収入 (夫) 551万円 + 給与収入 (妻) 100万円 = 651万円

・支出に関する事項 (空欄)

教育費 (長男) : $190\text{万円}^{(\ast)} \times (1 + 0.01)^2 \approx 193.8$

→ 194万円 (万円未満四捨五入)

※160万円 (年間教育費) + 30万円 (入学一時金)

教育費 (長女) : $120\text{万円}^{(\ast)} \times (1 + 0.01)^2 \approx 122.4$

→ 122万円 (万円未満四捨五入)

※90万円 (年間教育費) + 30万円 (入学一時金)

一時的支出 : $40\text{万円} \times (1 + 0.01)^2 \approx 40.8$

→ 41万円 (万円未満四捨五入)

支出合計 : 基本生活費286万円 + 住宅関連費161万円

+ 教育費 (長男) 194万円 + 教育費 (長女) 122万円

+ 生命保険料36万円 + その他支出24万円

+ 一時的支出41万円 = 864万円

年間収支 : 収入合計651万円 - 支出合計864万円 = ▲213万円

＜現状のキャッシュフロー表＞

(単位：万円)

経過年数			基準年	1	2	3	4	5	6	7
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
家族・年齢	牧村 賢治	本人	43	44	45	46	47	48	49	50
		理恵	妻	45	46	47	48	49	50	51
		大介	長男	17	18	19	20	21	22	23
		結菜	長女	14	15	16	17	18	19	20
ライフイベント					長男 大学入学 長女 高校入学 家族旅行			長女 大学入学	長男就職 家族旅行	
			変動率							
収入	給与収入(本人)	1.0%	540		551				573	579
	給与収入(妻)	0.0%	100	100	100	100	100	100	100	100
	収入合計	—	640		651				673	679
支出	基本生活費	1.0%	280	283	286	288	291	294	297	300
	住宅関連費	0.0%	161	161	161	161	161	161	161	161
	教育費(長男)	1.0%	40	40	194					0
	教育費(長女)	1.0%	40	40	122					0
	生命保険料	0.0%	36	36	36	36	36	36	36	36
	その他支出	1.0%	24	24	24	25	25	25	25	26
	一時的支出	1.0%	0	0	41	0	0	0	53	0
支出合計	—	581		864		773	884	742	695	
年間収支	—	59	61	(ア)▲213		▲111	▲216	▲69	▲16	
預貯金等残高	1.0%	710				361	149	81	66	

経過年数			8	9	10	11	12	13	14	15
西暦(年)			2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
家族・年齢	牧村 賢治	本人	51	52	53	54	55	56	57	58
		理恵	妻	53	54	55	56	57	58	59
		大介	長男	25	26	27	28	29	30	31
		結菜	長女	22	23	24	25	26	27	28
ライフイベント				長女就職 家族旅行						
			変動率							
収入	給与収入(本人)	1.0%			596	602	608	615	621	627
	給与収入(妻)	0.0%	100	100	100	100	100	100	100	100
	収入合計	—			696	702	708	715	721	727
支出	基本生活費	1.0%	303	306	309	312	316	319	322	325
	住宅関連費	0.0%	161	161	161	161	161	161	161	161
	教育費(長男)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	173	0	0	0	0	0	0	0
	生命保険料	0.0%	36	36	36	36	36	36	36	36
	その他支出	1.0%	26	26	27	27	27	27	28	28
	一時的支出	1.0%	0		0	0	0	0	0	0
支出合計	—	699			536	540	543	547	550	
年間収支	—	▲14			166	168	172	174	177	
預貯金等残高	1.0%	53			495	668	847	1,029	1,216	

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。

※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。

※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

問3 (設問B)

1

(イ) 1年後の年間収支

- ・収入に関する事項 (空欄)

給与収入 (夫) : $540\text{万円} \times (1 + 0.01) = 545.4$
 → 545万円 (万円未満四捨五入)

給与収入 (妻) : 110万円^(※)

※年間110万円 (2023年時点の現在価値)

収入合計 : 給与収入 (夫) 545万円 + 給与収入 (妻) 110万円 = 655万円

- ・支出に関する事項 (空欄)

住宅関連費 : 192万円^(※)

※152万円 (借換え後年間返済額) + 40万円 (諸費用) = 192万円

生命保険料 : 31万円

支出合計 : 基本生活費283万円 + 住宅関連費192万円 + 教育費 (長男) 40万円
 + 教育費 (長女) 40万円 + 生命保険料31万円 + その他支出24万円
 + 一時的支出 0万円 = 610万円

年間収支 : 収入合計655万円 - 支出合計610万円 = 45万円

(ウ) 9年後の預貯金等残高

- ・収入に関する事項 (空欄)

給与収入 (夫) : $540\text{万円} \times (1 + 0.01)^9 \doteq 590.5$
 → 591万円 (万円未満四捨五入)

給与収入 (妻) : 110万円^(※) $\times (1 + 0.01)^8 \doteq 119.1$

※2022年時点の現在価値を110万円とする

収入合計 : 給与収入 (夫) 591万円 + 給与収入 (妻) 119万円 = 710万円

- ・支出に関する事項 (空欄)

住宅関連費 : 152万円

生命保険料 : 31万円

一時的支出 : $50\text{万円} \times (1 + 0.01)^9 \doteq 54.6$
 → 55万円 (万円未満四捨五入)

支出合計 : 基本生活費306万円 + 住宅関連費152万円 + 教育費 (長男) 0万円
 + 教育費 (長女) 0万円 + 生命保険料31万円
 + その他支出26万円 + 一時的支出55万円 = 570万円

年間収支 : 収入合計710万円 - 支出合計570万円 = 140万円

預貯金等残高 : 前年末預貯金等残高239万円 $\times (1 + 0.01) + 140\text{万円}$
 = 381万円

◆解答・解説編◆

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数		基準年	1	2	3	4	5	6	7	
西暦(年)		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
家族・年齢	牧村 賢治	本人	43	44	45	46	47	48	49	50
		理恵	妻	45	46	47	48	49	50	51
		大介	長男	17	18	19	20	21	22	23
		結菜	長女	14	15	16	17	18	19	20
ライフイベント					長男 大学入学 長女 高校入学 家族旅行			長女 大学入学	長男就職 家族旅行	
		変動率								
収入	給与収入(本人)	1.0%	540	545						579
	給与収入(妻)	1.0%	100	110						117
	収入合計	—	640	655						696
支出	基本生活費	1.0%	280	283	286	288	291	294	297	300
	住宅関連費	0.0%	161	192						
	教育費(長男)	1.0%	40	40						0
	教育費(長女)	1.0%	40	40						
	生命保険料	0.0%	36	31						
	その他支出	1.0%	24	24	24	25	25	25	25	26
	一時的支出	1.0%	0	0		0	0	0	53	0
	支出合計	—	581	610			759	870	728	681
年間収支		—	59	(イ) 45			▲84	▲188	▲39	15
預貯金等残高		1.0%	710				423	239	202	219

経過年数		8	9	10	11	12	13	14	15	
西暦(年)		2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	
家族・年齢	牧村 賢治	本人	51	52	53	54	55	56	57	58
		理恵	妻	53	54	55	56	57	58	59
		大介	長男	25	26	27	28	29	30	31
		結菜	長女	22	23	24	25	26	27	28
ライフイベント				長女就職 家族旅行						
		変動率								
収入	給与収入(本人)	1.0%		591		602	608	615	621	627
	給与収入(妻)	1.0%		119		122	123	124	125	126
	収入合計	—		710		724	731	739	746	753
支出	基本生活費	1.0%	303	306	309	312	316	319	322	325
	住宅関連費	0.0%		152						
	教育費(長男)	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育費(長女)	1.0%	173	0	0	0	0	0	0	0
	生命保険料	0.0%		31						
	その他支出	1.0%	26	26	27	27	27	27	28	28
	一時的支出	1.0%	0	55	0	0	0	0	0	0
	支出合計	—	685	570		522	526	529	533	536
年間収支		—	18	140		202	205	210	213	217
預貯金等残高		1.0%	239	(ウ) 381		790	1,003	1,223	1,448	1,679

- ※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。
 ※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものをを使用すること。
 ※ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。
 ※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

問4（設問A）

2

(ア) 6年後の収入合計

給与収入（本人）：383万円

給与収入（妻）：200万円×(1+0.01)⁶≒212万円（万円未満四捨五入）収入合計：給与収入（本人）383万円+給与収入（妻）212万円=595万円

(イ) 11年後の支出合計

基本生活費：335万円

住宅関連費：120万円

教育費（長女）：50万円×(1+0.01)¹¹≒56万円（万円未満四捨五入）教育費（長男）：30万円×(1+0.01)¹¹≒33万円（万円未満四捨五入）

生命保険料：34万円

自動車関連費：20万円×(1+0.01)¹¹≒22万円（万円未満四捨五入）

その他支出：11万円

一時的支出：30万円×(1+0.01)¹¹≒33万円（万円未満四捨五入）

支出合計：基本生活費335万円+住宅関連費120万円
 +教育費（長女）56万円+教育費（長男）33万円
 +生命保険料34万円+自動車関連費22万円
 +その他支出11万円+一時的支出33万円=644万円

＜現状のキャッシュフロー表＞

(単位：万円)

経過年数		基準年	1	2	3	4	5	6	7	
西暦(年)		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
家族・年齢	倉田 信夫	本人	33	34	35	36	37	38	39	40
	紀子	妻	31	32	33	34	35	36	37	38
	京子	長女	3	4	5	6	7	8	9	10
	将司	長男	1	2	3	4	5	6	7	8
ライフイベント						長女 小学校 入学	自動車 買替え	長男 小学校 入学	家族旅行	
	変動率									
収入	給与収入(本人)	1.5%	350	355	361	366	371	377	383	388
	給与収入(妻)	1.0%	120	121	122				212	
	収入合計	—	470	476	483				(ア) 595	
支出	基本生活費	1.0%	300	303	306	309	312	315	318	322
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120
	教育費(長女)	1.0%	25	25	26	26	31	32	32	32
	教育費(長男)	1.0%	25	25	26	26	26	26	32	32
	生命保険料	0.0%	34	34	34	34	34	34	34	34
	自動車関連費	1.0%	20	30						
	その他支出	1.0%	10	10	10	10	10	11	11	11
	一時的支出	1.0%	0	0						
支出合計	—	534	547							
年間収支	—	▲64	▲71							
預貯金等残高	1.0%	600	535							

経過年数		8	9	10	11	12	13	14	15	
西暦(年)		2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	
家族・年齢	倉田 信夫	本人	41	42	43	44	45	46	47	48
	紀子	妻	39	40	41	42	43	44	45	46
	京子	長男	11	12	13	14	15	16	17	18
	将司	長女	9	10	11	12	13	14	15	16
ライフイベント				長女 中学入学	家族旅行	長男 中学入学	長女 高校入学		長男 高校入学	
	変動率									
収入	給与収入(本人)	1.5%	394	400	406	412	418	425	431	438
	給与収入(妻)	1.0%				223				
	収入合計	—				635				
支出	基本生活費	1.0%	325	328	331	335	338	341	345	348
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120
	教育費(長女)	1.0%	32			56				
	教育費(長男)	1.0%	32			33				
	生命保険料	0.0%	34	34	34	34	34	34	34	34
	自動車関連費	1.0%				22		23	34	23
	その他支出	1.0%	11	11	11	11	11	11	11	12
	一時的支出	1.0%				33				
支出合計	—				(イ) 644					
年間収支	—									
預貯金等残高	1.0%	157								

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。

※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。

※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

問4（設問B）

2

(ウ) 13年後の預貯金等残高

【収入合計】

給与収入（本人）：425万円

給与収入（妻）：280万円×(1+0.01)¹³≒319万円（万円未満四捨五入）

収入合計：給与収入（本人）425万円＋給与収入（妻）319万円＝744万円

【支出合計】

基本生活費：341万円

住宅関連費：120万円

教育費（長女）：(90万円＋35万円)×(1+0.01)¹³
≒142万円（万円未満四捨五入）教育費（長男）：50万円×(1+0.01)¹³≒57万円（万円未満四捨五入）

生命保険料：34万円

自動車関連費：23万円

その他支出：15万円×(1+0.01)¹³≒17万円（万円未満四捨五入）支出合計：基本生活費341万円＋住宅関連費120万円＋教育費（長女）142万円
＋教育費（長男）57万円＋生命保険料34万円＋自動車関連費
23万円＋その他支出17万円＝734万円

【年間収支】

収入合計744万円－支出合計734万円＝10万円

【預貯金等残高】

750万円（前年預貯金等残高）×1.01＋10万円≒768万円（万円未満四捨五入）

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数		基準年	1	2	3	4	5	6	7		
西暦(年)		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
家族・年齢	倉田 信夫	本人	33	34	35	36	37	38	39	40	
		紀子	妻	31	32	33	34	35	36	37	38
		京子	長女	3	4	5	6	7	8	9	10
		将司	長男	1	2	3	4	5	6	7	8
ライフイベント						長女 小学校 入学	自動車 買替え	長男 小学校 入学	家族旅行		
	変動率										
収入	給与収入(本人)	1.5%	350	355	361	366	371	377	383	388	
	給与収入(妻)	1.0%	120	121	122						
	収入合計	—	470	476	483						
支出	基本生活費	1.0%	300	303	306	309	312	315	318	322	
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120	
	教育費(長女)	1.0%	25	25	26	26	31	32	32	32	
	教育費(長男)	1.0%	25	25	26	26	26	26	32	32	
	生命保険料	0.0%	34	34	34	34	34	34	34	34	
	自動車関連費	1.0%	20	30							
	その他支出	1.0%	10	10	10						
	一時的支出	1.0%	0	0							
支出合計	—	534	547								
年間収支	—	▲64	▲71								
預貯金等残高	1.0%	600	535								

経過年数		8	9	10	11	12	13	14	15		
西暦(年)		2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038		
家族・年齢	倉田 信夫	本人	41	42	43	44	45	46	47	48	
		紀子	妻	39	40	41	42	43	44	45	46
		京子	長男	11	12	13	14	15	16	17	18
		将司	長女	9	10	11	12	13	14	15	16
ライフイベント				長女 中学入学	家族旅行	長男 中学入学	長女 高校入学		長男 高校入学		
	変動率										
収入	給与収入(本人)	1.5%	394	400	406	412	418	425	431	438	
	給与収入(妻)	1.0%						319			
	収入合計	—					744				
支出	基本生活費	1.0%	325	328	331	335	338	341	345	348	
	住宅関連費	0.0%	120	120	120	120	120	120	120	120	
	教育費(長女)	1.0%	32					142			
	教育費(長男)	1.0%	32					57			
	生命保険料	0.0%	34	34	34	34	34	34	34	34	
	自動車関連費	1.0%						23	34	23	
	その他支出	1.0%						17			
	一時的支出	1.0%						0			
支出合計	—						734				
年間収支	—						10				
預貯金等残高	1.0%	386	510	596	676	750	(㊦) 768				

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。

※各項目の計算に当たっては端数を残し、表中に記入の際は万円未満四捨五入したものを使用すること。ただし、預貯金等残高は各年ごとに端数を残さず、万円未満四捨五入のうえ計算すること。

※収入合計と支出合計、年間収支は表中に記載すべき整数で計算すること。

問5（設問A）

4

(ア) 7年後の年間収支

基本生活費：216万円×(1+0.01)⁷≒231.5812万円
→ 232万円（万円未満四捨五入）

教育費（長女）：60万円×(1+0.01)⁷≒64.3281万円
→ 64万円（万円未満四捨五入）

教育費（二女）：30万円×(1+0.01)⁷≒32.1640万円
→ 32万円（万円未満四捨五入）

支出合計：基本生活費232万円＋住宅関連費130万円＋教育費（長女）64万円
＋教育費（二女）32万円＋保険料22万円＋その他支出32万円
＝512万円

年間収支：収入合計557万円－支出合計512万円＝45万円

(イ) 10年後の預貯金等残高

その他支出：30万円×(1+0.01)¹⁰≒33.1386万円
→ 33万円（万円未満四捨五入）

一時的支出：20万円×(1+0.01)¹⁰≒22.0924万円
→ 22万円（万円未満四捨五入）

支出合計：基本生活費239万円＋住宅関連費130万円＋教育費（長女）55万円
＋教育費（二女）55万円＋保険料22万円＋その他支出33万円
＋一時的支出22万円＝556万円

年間収支：収入合計574万円－支出合計556万円＝18万円

預貯金等残高：1,120万円×(1+0.01)＋18万円
＝1,149.2万円 → 1,149万円（万円未満四捨五入）

◆解答・解説編◆

<現状のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数		現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
西暦(年)		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
家族・年齢	北村 和幸	本人	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
	圭子	妻	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	美咲	長女	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	成美	二女	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ライフイベント				長女 小学校 入学		二女 小学校 入学	旅行			長女 中学校 入学	二女 中学校 入学	長女 高校入学 旅行	
		変動率											
収入	給与収入(本人)	1.0%	460	465	469	474	479	483	488	493	498	503	508
	給与収入(妻)	1.0%	60	61	61	62	62	63	64	64	65	66	66
	収入合計	—	520	526	530	536	541	546	552	557	563	569	574
支出	基本生活費	1.0%	216	218	220	223	225	227	229	232	234	236	239
	住宅関連費	0.0%	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130
	教育費(長女)	1.0%	20	30	31	31	31	32	32	64	54	55	55
	教育費(二女)	1.0%	10	20	20	31	31	32	32	32	32	66	55
	保険料	0.0%	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
	その他支出	1.0%	30	30	31	31	31	32	32	32	32	33	33
	一時的支出	1.0%					21						22
	支出合計	—	428	450	454	468	491	475	477	512	504	542	556
年間収支	—	92	76	76	68	50	71	75	(ア)45	59	27	18	
預貯金等残高	1.0%	500	581	663	738	795	874	958	1,013	1,082	1,120	(イ)1,149	

経過年数		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
西暦(年)		2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	
家族・年齢	北村 和幸	本人	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57
	圭子	妻	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
	美咲	長女	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	成美	二女	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
ライフイベント				二女 高校入学	長女 大学入学		二女 大学入学		長女就職		二女就職	旅行
		変動率										
収入	給与収入(本人)	1.0%	513	518	524	529	534	539	545	550	556	561
	給与収入(妻)	1.0%	67	68	68	69	70	70	71	72	72	73
	収入合計	—	580	586	592	598	604	609	616	622	628	634
支出	基本生活費	1.0%	241	243	246	248	251	253	256	258	261	264
	住宅関連費	0.0%	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130
	教育費(長女)	1.0%	45	45	171	138	139	141				
	教育費(二女)	1.0%	56	135	102	103	139	106	107	108		
	保険料	0.0%	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
	その他支出	1.0%	33	34	34	34	35	35	36	36	36	37
	一時的支出	1.0%										61
	支出合計	—	527	609	705	675	716	687	551	554	449	514
年間収支	—	53	▲23	▲113	▲77	▲112	▲78	65	68	179	120	
預貯金等残高	1.0%	1,213	1,202	1,101	1,035	933	864	938	1,015	1,204	1,336	

問 5 (設問 B)

1

(ウ) 8年後の住宅関連費

住宅関連費：住宅ローン返済額86万円＋固定資産税等10万円
＋管理費および修繕積立金16万円＝112万円

(エ) 8年後の保険料

保険料：保障の見直しにより、年間保険料は当初より7万円削減され、年間15万円

◆解答・解説編◆

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数		現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
西暦(年)		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
家族・年齢	北村 和幸	本人	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
	圭子	妻	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	美咲	長女	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	成美	二女	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ライフイベント				長女 小学校 入学		二女 小学校 入学	旅行	繰上げ 返済		長女 中学校 入学		二女 中学校 入学	長女 高校入学 旅行
		変動率											
収入	給与収入(本人)	1.0%	460	465	469	474	479	483	488	493	498	503	508
	給与収入(妻)	1.0%	60	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
	収入合計	—	520	566	571	577	583	588	594	600	606	612	618
支出	基本生活費	1.0%	216	218	220	223	225	227	229	232	234	236	239
	住宅関連費	0.0%	130	177	112	112	112	412	112	112	(ウ)112	112	112
	教育費(長女)	1.0%	20	30	31	31	31	32	32	64	54	55	55
	教育費(二女)	1.0%	10	20	20	31	31	32	32	32	32	66	55
	保険料	0.0%	22	15	15	15	15	15	15	15	(エ)15	15	15
	その他支出	1.0%	30	30	31	31	31	32	32	32	32	33	33
	一時的支出	1.0%					21						22
	支出合計	—	428	490	429	443	466	750	452	487	479	517	531
年間収支	—	92	76	142	134	117	▲162	142	113	127	95	87	
預貯金等残高	1.0%	500	581	729	870	996	844	994	1,117	1,255	1,363	1,464	

経過年数		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
西暦(年)		2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	
家族・年齢	北村 和幸	本人	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57
	圭子	妻	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
	美咲	長女	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	成美	二女	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
ライフイベント				二女 高校入学	長女 大学入学		二女 大学入学		長女就職		二女就職	旅行
		変動率										
収入	給与収入(本人)	1.0%	513	518	524	529	534	539	545	550	556	561
	給与収入(妻)	1.0%	112	113	114	115	116	117	118	120	121	122
	収入合計	—	625	631	638	644	650	656	663	670	677	683
支出	基本生活費	1.0%	241	243	246	248	251	253	256	258	261	264
	住宅関連費	0.0%	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112
	教育費(長女)	1.0%	45	45	171	138	139	141				
	教育費(二女)	1.0%	56	135	102	103	139	106	107	108		
	保険料	0.0%	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
	その他支出	1.0%	33	34	34	34	35	35	36	36	36	37
	一時的支出	1.0%										61
	支出合計	—	502	584	680	650	691	662	526	529	424	489
年間収支	—	123	47	▲42	▲6	▲41	▲6	137	141	253	194	
預貯金等残高	1.0%	1,602	1,665	1,640	1,650	1,626	1,636	1,789	1,948	2,220	2,436	

問6（設問A）

4

(ア) 9年後の収入合計

給与収入（本人）： $350\text{万円} \times (1 + 0.01)^9 \approx 382.7898\text{万円}$
 → 383万円（万円未満四捨五入）

給与収入（妻）： $300\text{万円} \times (1 + 0.01)^9 \approx 328.1055\text{万円}$
 → 328万円（万円未満四捨五入）

収入合計：給与収入（本人）383万円＋給与収入（妻）328万円＝711万円

(イ) 6年後の支出合計

教育費（長男）： $30\text{万円} \times (1 + 0.01)^6 \approx 31.8456\text{万円}$
 → 32万円（万円未満四捨五入）

教育費（長女）： $30\text{万円} \times (1 + 0.01)^6 \approx 31.8456\text{万円}$
 → 32万円（万円未満四捨五入）

その他支出： $30\text{万円} \times (1 + 0.01)^6 \approx 31.8456\text{万円}$
 → 32万円（万円未満四捨五入）

一時的支出： $30\text{万円} \times (1 + 0.01)^6 \approx 31.8456\text{万円}$
 → 32万円（万円未満四捨五入）

支出合計：基本生活費318万円＋住宅関連費108万円＋教育費（長男）32万円
 ＋教育費（長女）32万円＋保険料44万円＋その他支出32万円
 ＋一時的支出32万円＝598万円

◆解答・解説編◆

<現状のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
家族・年齢	長谷川 宏行	本人	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
		翔子 妻	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
		大地 長男	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		七海 長女	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ライフイベント		変動率						長男 小学校 入学	長女 小学校 入学 旅行				
収入	給与収入(本人)	1.0%	350	354	357	361	364	368	372	375	379	383	387
	給与収入(妻)	1.0%	210	212	214	216	219	221	223	225	227	328	331
	一時的収入	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	収入合計	—	560	566	571	577	583	589	595	600	606	(ア)711	718
支出	基本生活費	1.0%	300	303	306	309	312	315	318	322	325	328	331
	住宅関連費	0.0%	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108
	教育費(長男)	1.0%	40	25	22	23	23	32	32	32	32	33	33
	教育費(長女)	1.0%	20	20	12	11	11	23	32	32	32	33	33
	保険料	0.0%	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
	その他支出	1.0%	30	30	31	31	31	32	32	32	32	33	33
	一時的支出	1.0%	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0
支出合計	—	542	530	523	526	529	554	(イ)598	570	573	579	582	
年間収支	—	18	36	48	51	54	35	▲3	30	33	132	136	
預貯金等残高	1.0%	400	440	492	548	607	648	651	688	728	867	1,012	

経過年数			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
西暦(年)			2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043
家族・年齢	長谷川 宏行	本人	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
		翔子 妻	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
		大地 長男	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
		七海 長女	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
ライフイベント		変動率	長男 中学校 入学	長女 中学校 入学		長男 高校入学	長女 高校入学 旅行		長男 大学入学	長女 大学入学	旅行	
収入	給与収入(本人)	1.0%	390	394	398	402	406	410	415	419	423	427
	給与収入(妻)	1.0%	335	338	341	345	348	352	355	359	362	366
	一時的収入	0.0%	0	0	0	0	0	0	200	200	0	0
	収入合計	—	725	732	739	747	754	762	970	978	785	793
支出	基本生活費	1.0%	335	338	341	345	348	352	355	359	362	366
	住宅関連費	0.0%	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108
	教育費(長男)	1.0%	67	56	57	138	104	106	142	108	109	110
	教育費(長女)	1.0%	33	68	57	57	139	106	107	179	145	146
	保険料	0.0%	44	44	44	44	44	44	44	32	20	20
	その他支出	1.0%	33	34	34	34	35	35	36	36	36	37
	一時的支出	1.0%	0	0	0	0	58	0	0	0	60	0
支出合計	—	620	648	641	726	836	751	792	822	840	787	
年間収支	—	105	84	98	21	▲82	11	178	156	▲55	6	
預貯金等残高	1.0%	1,127	1,222	1,332	1,366	1,298	1,322	1,513	1,684	1,646	1,668	

問6（設問B）

4

(ウ) 18年後の預貯金等残高

収入合計：給与収入（本人）419万円＋給与収入（妻）359万円
＋一時的収入200万円＝978万円

保険料：年間保険料は見直しにより27万円（32万円－5万円）となる。

支出合計：基本生活費330万円＋住宅関連費108万円＋教育費（長男）108万円
＋教育費（長女）179万円＋保険料27万円＋その他支出36万円
＝788万円

年間収支：収入合計978万円－支出合計788万円＝190万円

預貯金等残高：前年の預貯金等残高2,089万円×1.01＋190万円＝2,299.89万円
→ 2,300万円（万円未満四捨五入）

◆解答・解説編◆

<見直し後のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
西暦(年)			2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
家族・年齢	長谷川 宏行	本人	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
		翔子 妻	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
		大地 長男	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		七海 長女	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ライフイベント		変動率						長男 小学校 入学	長女 小学校 入学 旅行				
収入	給与収入(本人)	1.0%	350	354	357	361	364	368	372	375	379	383	387
	給与収入(妻)	1.0%	210	212	214	216	219	221	223	225	227	328	331
	一時的収入	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	収入合計	—	560	566	571	577	583	589	595	600	606	711	718
支出	基本生活費	1.0%	300	279	282	284	287	290	293	296	299	302	305
	住宅関連費	0.0%	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108
	教育費(長男)	1.0%	40	25	22	23	23	32	32	32	32	33	33
	教育費(長女)	1.0%	20	20	12	11	11	23	32	32	32	33	33
	保険料	0.0%	44	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
	その他支出	1.0%	30	30	31	31	31	32	32	32	32	33	33
	一時的支出	1.0%	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0
支出合計	—	542	501	494	496	499	524	568	539	542	548	551	
年間収支	—	18	65	77	81	84	65	27	61	64	163	167	
預貯金等残高	1.0%	400	469	551	638	728	800	835	904	977	1,150	1,329	

経過年数			11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
西暦(年)			2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043
家族・年齢	長谷川 宏行	本人	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
		翔子 妻	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
		大地 長男	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
		七海 長女	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
ライフイベント		変動率	長男 中学校 入学	長女 中学校 入学		長男 高校入学	長女 高校入学 旅行		長男 大学入学	長女 大学入学	旅行	
収入	給与収入(本人)	1.0%	390	394	398	402	406	410	415	419	423	427
	給与収入(妻)	1.0%	335	338	341	345	348	352	355	359	362	366
	一時的収入	0.0%	0	0	0	0	0	0	200	200	0	0
	収入合計	—	725	732	739	747	754	762	970	978	785	793
支出	基本生活費	1.0%	308	311	314	317	320	324	327	330	333	337
	住宅関連費	0.0%	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108
	教育費(長男)	1.0%	67	56	57	138	104	106	142	108	109	110
	教育費(長女)	1.0%	33	68	57	57	139	106	107	179	145	146
	保険料	0.0%	39	39	39	39	39	39	39	27	15	15
	その他支出	1.0%	33	34	34	34	35	35	36	36	36	37
	一時的支出	1.0%	0	0	0	0	58	0	0	0	60	0
支出合計	—	588	616	609	693	803	718	759	788	806	753	
年間収支	—	137	116	130	54	▲49	44	211	190	▲21	40	
預貯金等残高	1.0%	1,479	1,610	1,756	1,828	1,797	1,859	2,089	(ワ)2,300	2,302	2,365	

問7

1

特定非営利活動法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会（以下「協会」という）の「会員倫理規程（抜粋）」の穴埋め問題である。

【第2原則】 誠実性

誠実性をもって（ア：専門的サービス）を提供しなければならない。

誠実であるためには、専門家としてのすべての行動において正直であり（イ：公平無私）であることが必要である。CFP®認定者は、顧客から信頼される立場にあり、こうした信頼の基となるのは、人間としての誠実さである。（省略）

【第4原則】 公平性

専門家としてのすべての関係において、公平で道理をわきまえていなければならない。また、（ウ：利益相反）を開示し、管理しなければならない。（省略）

問 8

3

【第3原則】客観性

客観的に（ア：専門的サービス）を提供しなければならない。

C F P[®]認定者は、いかなるサービスをどのような裁量で提供する場合においても、業務の誠実性を守り、（イ：利益相反）を管理して専門家としての健全な判断を行使することが求められる。

【第4原則】公平性

専門家としてのすべての関係において、公平で道理をわきまえていなければならない。また、（イ：利益相反）を開示し、管理しなければならない。

公平であるためには、業務契約についての情報を顧客に提供することが必要であり、重要な（イ：利益相反）の開示が求められる。

【第5原則】専門家意識

専門家としての模範的な態度で行動しなければならない。

専門家意識を持つC F P[®]認定者は、（ウ：自身で又は他の専門家と共に）、職業に対する社会的なイメージ及び生活者の利益へ貢献する能力を維持し、向上させなければならない。

【第8原則】勤勉性

勤勉性をもって（ア：専門的サービス）を提供しなければならない。

勤勉であるためには、時宜を得た完全な方法で専門家としての責任を果たすことが必要である。

勤勉性の原則を順守するためには、C F P[®]認定者は、（ア：専門的サービス）を適切に計画、管理及び提供することが求められる。

問9

4

1. 適切。
2. 適切。学校などの教育機関で、授業の過程での使用に供することを目的とする場合は、必要と認められる範囲内で、一定のルールのもと、公表された著作物を使用してもかまわない。
3. 適切。法令や通達、広報資料、統計資料、報告書などは国民の権利や義務を形成するものであり、一般国民に対して広く周知されるべきものであるため、原則として転載を禁止する旨の表示がない限り自由に引用することができる。
4. 不適切。小学生の作文や幼稚園児の絵であっても、思想又は感情を「創作的」に表現したものであり、「文芸、学術、美術又は音楽の範囲」に属するものは、著作物である。

問10

4

1. 適切。個人情報取扱事業者は、匿名加工情報を一定の要件の下に第三者へ提供することができる。匿名加工情報とは、特定の個人を識別することができないように個人情報を加工し、かつ、元の個人情報を復元できないようにした情報のことである。
2. 適切。個人情報取扱事業者が要配慮個人情報を取得するには、人の生命、身体または財産の保護のために必要がある場合であって本人の同意を得ることが困難であるときなど一定の場合を除き、あらかじめ本人の同意を得ることが必要である。
なお、要配慮個人情報とは、本人に対する不当な差別・偏見その他の不利益が生じるおそれのある人種・信条・社会的身分・病歴・犯罪の経歴・犯罪被害の事実などが含まれる個人情報のことである。
3. 適切。指紋など特定の個人の身体の一部の特徴を電子計算機の用に供するために変換した符号などの個人識別符号が含まれる情報は、生存する個人に関するものであれば個人情報に該当する。個人識別符号とは、身体の一部の特徴を電子計算機の用に供するために変換した符号で、特定の個人を識別できるもののことである。生存する個人に関する情報であって個人識別符号が含まれるものは、個人情報に該当する。
4. 不適切。個人情報取扱事業者は、利用目的を変更する場合には、変更前の利用目的と関連性を有すると合理的に認められる範囲を超えて行ってはならない。また、利用目的を変更した場合は、原則として、変更した利用目的について本人に通知し、または公表しなければならない。

問11

1

1. 不適切。消費者契約の取消権は、追認をすることができる時から1年間行使しないとき、または、消費者契約の締結時から5年を経過したときは、時効により消滅する。
2. 適切。事業者に対し、消費者が後見開始、保佐開始または補助開始の審判を受けたことのみを理由とする解除権を付与する消費者契約の条項は、無効とされる。
3. 適切。事業者の債務不履行により生じた消費者の解除権を放棄させ、または当該事業者にその解除権の有無を決定する権限を付与する消費者契約の条項は、無効とされる。
4. 適切。事業者が消費者契約締結の勧誘をする際、消費者に対し重要事項について事実と異なることを告げ、消費者が告げられた内容が事実であると誤認したことによって消費者契約の申込みの意思表示をしたときは、消費者はこれを取り消すことができる。

問12

1

【退職時点の必要額（目標額）】

- ・退職後30年間にわたり年利1.5%で複利運用しながら、毎年3月末に65万円づつ取り崩すのに必要な退職時点（2023年3月末）での金額
 $650,000円 \times 24.016$ （年金現価係数1.5%・30年）＝15,610,400円…①
- ・退職後4年間にわたり年利1.5%で複利運用しながら、4年経過時点（2037年3月末）で自動車購入資金220万円を取り崩すのに必要な退職時点（2033年3月末）での金額
 $2,200,000円 \times 0.942$ （現価係数1.5%・4年）＝2,072,400円…②
- ・退職時点（2033年3月末）での必要な金額（目標額）
 $① + ② = 17,682,800円 \cdots A$

【準備額】

- ・貯蓄350万円を年利2.0%で10年間複利運用した場合の退職時点（2023年3月末）の金額
 $3,500,000円 \times 1.219$ （終価係数2.0%・10年）＝4,266,500円…③
- ・2023年4月1日からの4年間、毎年3月末に30万円を積み立てながら年利1.0%で複利運用した場合の当初4年間経過時点（2027年3月末）の金額
 $300,000円 \times 4.060$ （年金終価係数1.0%・4年）＝1,218,000円
- ・1,218,000円を2027年4月1日からの6年間、年利2.0%で複利運用した場合の退職時点（2033年3月末）の金額
 $1,218,000円 \times 1.126$ （終価係数2.0%・6年）＝1,371,468円…④
- ・退職時点（2023年3月末）の準備額
 $③ + ④ + 11,000,000円 = 16,637,968円 \cdots B$

【不足額】

$$A - B = 1,044,832円 \cdots C$$

【不足額】に対して2027年4月1日からの6年間、年利2.0%で複利運用する場合、毎年3月末に積み立てるべき金額を求める

$$C \times 0.159$$
（減債基金係数2.0%・6年） $\doteq 166,128.2 \cdots 円$

→ 17万円（万円未満切り上げ）

問13

3

【退職一時金と自助努力で準備した老後のための準備額（退職時点（2023年3月末））】
26,000,000円・・・A

【退職時点（2023年3月末）で必要な金額】

- ・2028年3月末にリフォーム資金700万円を取り崩すのに必要な2023年3月末での金額。

$$7,000,000円 \times 0.928 \text{ (現価係数} 1.5\% \cdot 5 \text{年)} = 6,496,000円 \cdots \textcircled{1}$$

- ・2038年4月1日からの15年間、年利1.0%で複利運用しながら毎年3月末に60万円ずつ取り崩すために必要な2038年3月末時点の金額。

$$600,000円 \times 13.865 \text{ (年金現価係数} 1.0\% \cdot 15 \text{年)} = 8,319,000円 \cdots \textcircled{2}$$

- ・②を用意するために2023年3月末時点で必要な金額

$$\textcircled{2} \times 0.800 \text{ (現価係数} 1.5\% \cdot 15 \text{年)} = 6,655,200円 \cdots \textcircled{3}$$

- ④ 退職時点（2023年3月末）で必要な金額

$$\textcircled{1} + \textcircled{3} = 13,151,200円 \cdots B$$

【A - Bを計算して余剰金を求める】

$$A - B = 12,848,800円 \cdots C$$

- ⑤ 2023年4月から15年間、年利1.5%で複利運用しながら毎年3月末に取り崩すことができる一定金額を求める。

$$C \times 0.075 \text{ (資本回収係数} 1.5\% \cdot 15 \text{年)} = 963,660円$$

→ 96万円（万円未満切捨て）

問14

2

- ・退職後25年間にわたり年利2.0%で複利運用しながら、毎年3月末に120万円ずつ取り崩すのに必要な退職時点（2024年3月末）の金額
 $1,200,000円 \times 19.523$ （年金現価係数2.0%・25年） $=23,427,600円 \cdots \textcircled{1}$
- ・退職後5年間にわたり年利1.0%で複利運用しながら、5年経過時点（2029年3月末）で自宅リフォーム資金500万円を取り崩すのに必要な退職時点（2024年3月末）の金額
 $5,000,000円 \times 0.951$ （現価係数1.0%・5年） $=4,755,000円 \cdots \textcircled{2}$
- ・当初10年間経過後の20年間、年利2.0%で複利運用しながら、毎年3月末に96万円ずつ取り崩すのに必要な当初10年間経過時点（2034年3月末）の金額
 $960,000円 \times 16.351$ （年金現価係数2.0%・20年） $=15,696,960円 \cdots \textcircled{3}$
- ・ $\textcircled{3}$ の金額を当初10年間、年利1.0%で複利運用して準備するのに必要な退職時点（2024年3月末）の金額
 $\textcircled{3} \times 0.905$ （現価係数1.0%・10年） $\doteq 14,205,749円$ （円未満四捨五入） $\cdots \textcircled{4}$
- ・ $\textcircled{1}$ の金額から $\textcircled{2}$ と $\textcircled{4}$ の合計金額を差し引く
 $\textcircled{1} - (\textcircled{2} + \textcircled{4}) = 4,466,851円 \cdots \textcircled{5}$
- ・ $\textcircled{5}$ の金額を当初10年間、年利1.0%で複利運用しながら、毎年3月末に取り崩すことができる一定金額
 $\textcircled{5} \times 0.106$ （資本回収係数1.0%・10年） $\doteq \underline{47万円}$ （万円未満切捨て）

問15

4

【退職時点の必要額（目標額）】

- ① 2038年4月1日からの20年間、年利1.0%で複利運用しながら、毎年3月末に100万円ずつ取り崩すのに必要な2038年3月末時点の金額
 $1,000,000円 \times 18.046$ （年金現価係数1.0%・20年）＝18,046,000円
- ② ①の金額を2028年4月1日からの10年間、年利1.5%で複利運用しながら、準備するのに必要な2028年3月末時点の金額
 $18,046,000円 \times 0.862$ （現価係数1.5%・10年）＝15,555,652円
- ③ 2035年3月末に取り崩すリフォーム資金800万円を7年間、年利1.5%で複利運用しながら、準備するのに必要な2028年3月末時点の金額
 $8,000,000円 \times 0.901$ （現価係数1.5%・7年）＝7,208,000円

【退職時点の必要額（目標額）】

$$\text{②} + \text{③} = 22,763,652円$$

【退職時点の準備額】

- ④ 2023年4月1日からの5年間、2,800万円を年利2.0%で複利運用した場合の2028年3月末時点の金額
 $28,000,000円 \times 1.104$ （終価係数2.0%・5年）＝30,912,000円
- ⑤ 2023年4月1日からの5年間、毎年3月末に60万円を積み立てながら年利2.0%で複利運用した場合の2028年3月末時点の金額
 $600,000円 \times 5.204$ （年金終価係数2.0%・5年）＝3,122,400円

【退職時点の準備額】 2028年3月末時点で準備できた資金の合計額

$$\text{④} + \text{⑤} = 34,034,400円$$

【退職時点の余剰金】

- ・【退職時点の準備額】から【退職時点の必要額（目標額）】を差し引く
 $34,034,400円 - 22,763,652円 = 11,270,748円$

【余剰金を2028年4月1日からの10年間、年利1.5%で複利運用しながら、毎年3月末に取り崩すことができる一定金額（最大額）】

$$11,270,748円 \times 0.108$$
（資本回収係数1.5%・10年） \approx 121万円（万円未満切捨て）

問16

3

【退職時点の必要額（目標額）】

- ・退職後5年間にわたり年利1.0%で複利運用しながら、5年経過した時点（2029年3月末）で長男の結婚資金の援助として400万円を取り崩すのに必要な退職時点（2024年3月末）での金額
 $4,000,000円 \times 0.951$ （現価係数1.0%・5年） $= 3,804,000円$ …①
- ・退職後10年間にわたり、年利1.0%で複利運用しながら、毎年3月末に80万円ずつ取り崩すのに必要な退職時点（2024年3月末）での金額
 $800,000円 \times 9.471$ （年金現価係数1.0%・10年） $= 7,576,800円$ …②

【退職時点の準備額】

26,000,000円

【退職時点の余剰金】

- ・退職時点（2024年3月末）で準備できている金額から、①と②の合計額を差し引く
 $26,000,000円 - (① + ②) = 14,619,200円$ …③

【余剰金を退職10年後から20年間、毎年3月末に取り崩すことができる一定金額（最大額）】

- ・③の金額を退職後10年間にわたり、年利1.0%で複利運用した場合の10年経過時点（2034年3月末）での金額
 $③ \times 1.105$ （終価係数1.0%・10年） $= 16,154,216円$ …④
- ・④の金額を2034年4月からの20年間、年利2.0%で複利運用しながら、毎年3月末に取り崩すことができる一定金額
 $④ \times 0.061$ （資本回収係数2.0%・20年） $\approx 98万円$ （万円未満切捨て）

問17

1

A : 【退職時点の必要額 (目標額)】 - B : 【退職時点の準備額】 = C : 【不足額】
最終的に、C 【不足額】 に対する積立額を求める。

A : 【退職時点の必要額 (目標額)】 を求める

- ① 退職後30年間にわたり年利1.5%で複利運用しながら、毎年3月末に80万円ずつ取り崩すのに必要な退職時点 (2035年3月末) での金額
 $800,000円 \times 24.016$ (年金現価係数1.5%・30年) = 19,212,800円
- ② 退職時から10年間にわたり年利1.5%で複利運用しながら、10年経過時点 (2045年3月末) で自宅のリフォーム資金800万円を取り崩すのに必要な退職時点 (2035年3月末) での金額
 $8,000,000円 \times 0.862$ (現価係数1.5%・10年) = 6,896,000円
- ③ 退職時点 (2035年3月末) の必要額 (目標額)
 $① + ② = 26,108,800円 \dots A$

B : 【退職時点の準備額】 を求める

- ④ 貯蓄450万円を年利1.0%で複利運用した場合の当初5年経過時点 (2028年3月末) の金額
 $4,500,000円 \times 1.051$ (終価係数1.0%・5年) = 4,729,500円
- ⑤ ④の金額を当初5年経過後の7年間、年利2.0%で複利運用した場合の退職時点 (2035年3月末) の金額
 $④ \times 1.149$ (終価係数2.0%・7年) \doteq 5,434,196円 (円未満四捨五入)
- ⑥ 2028年4月1日からの7年間、毎年3月末に50万円を積み立てながら年利2.0%で複利運用した場合の退職時点 (2035年3月末) の金額
 $500,000円 \times 7.434$ (年金終価係数2.0%・7年) = 3,717,000円
- ⑦ 2035年3月末に受け取る予定の退職一時金1,500万円 (手取り額)
- ⑧ $⑤ + ⑥ + ⑦ = 24,151,196円 \dots B$

C : 【不足額】を求める

- ⑨ A【退職時点の必要額（目標額）】からB【退職時点の準備額】を差し引き、
C : 【不足額】を求める。

$$A【退職時点の必要額（目標額）】 - B【退職時点の準備額】 = C【不足額】$$

$$C = 1,957,604円 \cdots \textcircled{9}$$

C : 【不足額】に対する積立額を求める

- ⑩ ⑨の金額を用意するために必要な当初5年経過時点（2027年3月末）の金額

$$\textcircled{9} \times 0.871 \text{（現価係数}2.0\% \cdot 7\text{年）} \approx 1,705,073円 \text{（円未満四捨五入）}$$

- ⑪ ⑩の金額を当初5年間、年利1.0%で複利運用して用意する場合、毎年3月末に積み立てるべき金額

$$\textcircled{10} \times 0.196 \text{（減債基金係数}1.0\% \cdot 5\text{年）} \approx \underline{34万円} \text{（万円未満切上げ）}$$

問18

1

A : 【退職時点の必要額 (目標額)】 - B : 【退職時点の準備額】 = C : 【不足額】

最終的に、C 【不足額】 に対する積立額を求める。

A : 【退職時点の必要額 (目標額)】 を求める

- ① 退職時から30年間にわたり年利1.0%で複利運用しながら、毎年3月末に70万円ずつ取り崩すのに必要な退職時点での金額
 $70,000円 \times 25.808$ (年金現価係数1.0%・30年) = 18,065,600円
- ② 退職時から6年間にわたり年利1.0%で複利運用しながら、6年後にリフォーム資金500万円取り崩すのに必要な退職時点での金額
 $5,000,000円 \times 0.942$ (現価係数1.0%・6年) = 4,710,000円
- ③ 退職時点で必要な金額 (目標額)
 ① + ② = 22,775,600円・・・A

B : 【退職時点の準備額】 を求める

- ④ 貯蓄370万円を10年間にわたり年利1.5%で複利運用した場合の退職時点での金額
 $3,700,000円 \times 1.161$ (終価係数1.5%・10年) = 4,295,700円
- ⑤ 2024年4月1日からの6年間、毎年3月末に20万円を積み立てながら年利1.0%で複利運用した場合の6年経過後の金額
 $200,000円 \times 6.152$ (年金終価係数1.0%・6年) = 1,230,400円
- ⑥ ⑤の金額を、2030年4月1日からの4年間にわたり年利2.0%で複利運用した場合の退職時点での金額
 $⑤ \times 1.082$ (終価係数2.0%・4年) = 1,331,293円 (円未満四捨五入)
- ⑦ 2034年3月末に受け取れる退職一時金1,600万円 (手取り額)
- ⑧ ④ + ⑥ + ⑦ = 21,626,993円・・・B

C : 【不足額】を求める

- ⑨ A【退職時点の必要額（目標額）】からB【退職時点の準備額】を差し引き、
C : 【不足額】を求める。

$$A【退職時点の必要額（目標額）】 - B【退職時点の準備額】 = C【不足額】$$

$$C = 1,148,607円$$

C : 【不足額】に対する積立額を求める

- ⑩ ⑨の金額を、2030年4月1日から退職時までの4年間にわたり年利2.0%で
複利運用しながら用意する場合に、毎年3月末に積み立てるべき一定金額

$$⑨ \times 0.243 \text{ (減債基金係数} 2.0\% \cdot 4 \text{年)} \simeq \underline{28万円} \text{ (万円未満切上げ)}$$